学習院桜友会「櫻友クラブ」の会員誌

Oblige

[オブリージ]
Autumn No.31
2010.10.25

特集「自分の時代」だからもう一度

日記とは何か？

聞き書き　この人の「わが町」へ！

伊勢原市長・堀江　侃

人物クローズアップ「学習院と私」

順天堂大学教授・間宮聰夫

校外施設シリーズ

沼津游泳場

［桜友会だより］

職域桜友会・輔仁会サークル・地域桜友会

櫻友クラブ主催のイベント案内

人がつくる、人の場所。

そこには落ち着ける空間があります。そこには働きやすい環境があります。
そして、そこには豊かな時間が流れています。
『人がつくる、人の場所。』
これからもずっと大切に持ち続けたい想いです。

人がつくる、人の場所。
SHIMIZU CORPORATION
清水建設

生命（いのち）の場所

Circle of Life

第8回

気持ちがいいことは本当にいいことなのか!? 気持ちがいいことが体に悪い場合もある。薬が毒になることもあるし、毒が薬になることもあるのだ。ならば「気持ちがいい！」と感じる風景の中にいるということは、どういうことなのか。

写真／渡辺　潔

山形県、鳥海山麓の渓流の岩にビッシリと取りついたコケ。コケが生きる環境としては、最高の場所だろう。太陽の光が当たると、コケたちが生き生きと踊っているようである

「コケ」水との深い縁とともに生きるコケたち、コケの仲間は地球上に2万5000種あるという。

世界中では約2万5000種、日本だけでも約2000種が知られている、コケ。蘚苔類ともコケ類ともいう植物界の一門に属し、分類学的にいうとシダ植物と緑藻類の中間に位置する。この微妙な位置は、進化の過程からみると納得がいく。進化の説は2つ。ひとつは、緑藻類が水中から陸上へと進化したというもので、さらに進化したものがシダだ、という説。そしてもうひとつは、緑藻類が一度シダの祖先の植物になったが、それが分化した、という説だ。いずれにせよ、地上植物に必要な適度な太陽の光と、水中植物に必要な十分の水分が必要だということもうなずける。また、水分にいたっては、土からではなく、空気中に存在する蒸気などを利用するという、独特の摂取法となっている。ところで、コケの特徴は艶やかな緑。秋、枯葉が散る頃でも若葉のような初々しさを持ち、冬、雪が降る枯山水の日本庭園でも色を添える。小さな植物がわれわれに語りかけてくるものは、何であろうか。

スタート

@LAWSONでインターネットショッピング

ローソンで受取り!!

**CD、ビデオ、DVDが30万タイトルも揃った
インターネットショッピング、@LAWSON。
ご注文いただいた商品を
お近くのLAWSONで受け取れます。**

STEP1
@LAWSONに
アクセスして、
お好きなCDをセレクト。
http://atmark.lawson.co.jp/
「支払い方法」と
「受取り方法」は
ローソンをクリックし、
「受付番号」をゲット。

STEP2
都合のいいときに、
近所のローソンで
料金を支払う。
店頭のLoppiに「受付番号」と
「電話番号」を入力し、
出てきた申込券でレジにてお支払い。

STEP3
都合のいいときに、
ローソンでCDを
受け取る。
入金後、最短3〜4日で
商品が料金を支払った
ローソンに届きます。

とっても便利なので、
また@LAWSONにアクセス。

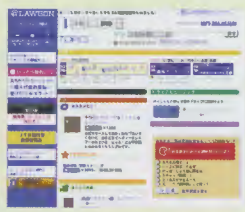
（ CD、ビデオ、DVDがザックザク。）

お目当ての曲やアーティストを見つけたら、あとは“ショッピングカート”をクリックするだけ。
リアルタイムで在庫がわかり、商品の発送状況も確認できます。

ローソンの快適インターネットショッピング

@LAWSON

http://atmark.lawson.co.jp/



Oblige [オブリージ]
Autumn No.31
2000.10.25

CONTENTS

COVER
秋を感じさせるススキの大群落。こぢんまりと道ばたにたたずむススキとは違って、大きな季節の流れ、〝宇宙感〟といったものさえ漂わせる。
Photographer/Kiyoshi Watanabe

特集　「自分の時代」だからもう一度
日記とは何か？ ……6

ノーブレス・オブリージ宣言 vol.17
土屋守（作家・スコッチ研究家）……4

聞き書き　この人の「わが町へ」！ その2
堀江侃（神奈川県伊勢原市長）……14

人物クローズアップ「学習院と私」 Vol.9
間宮聰夫（順天堂大学教授）……33

■生命の場所　第8回
「コケ」 写真／渡辺潔……1

■伝統のニッポンへ！[8]
大谷焼（徳島県鳴門市）……45

■食卓の四季[12]
メープルシロップ 江上種英……48

校外施設シリーズ
沼津游泳場……37

学習院大学設立50周年企画
学長の横顔……42

■桜友会だより
職域桜友会／伊勢丹……18
輔仁会サークル／漕艇部20 美術部22
地域桜友会／山形桜友会……30

OBLIGE CLUB●櫻友クラブからのお知らせ
小笠原流「弓始」の儀式のご案内……24

OBLIGE伝言板●会員からのお便り紹介コーナー……32

本文デザイン　加藤正博
SPECIAL THANKS
KOUSAI-SHUPPANSHA

本誌掲載の写真・イラスト・記事の無断転載および複写を禁じます。

スコッチの蒸留所を訪ねる旅。

À VOTRE SANTÉ

土屋 守（昭54国）
作家・スコッチ研究家

今年七月、三週間ほどスコットランドを旅行した。その折に、南スコットランドのダンフリース州にあるブラッドノック蒸留所を訪れた。ブラッドノックはスコッチの蒸留所の中で、もっとも南に位置する蒸留所である。私にとっては最後の、そして百十七番目の蒸留所であった。

スコッチの蒸留所の数は現在約百三十。そのうちモルトウイスキーの蒸留所が百十から百二十。もちろん、すべてが操業しているわけではない。生産調整のため二十年近く生産をストップしている蒸留所もあれば、中には取り壊されて建物すら存在しないものもある。百十七という数字はしたがって、現時点で実現可能な最大の数字であった。

――すべての蒸留所をこの眼で見たい、すべての蒸留所を訪れたい。

と思うようになったのは、いつ頃のことなのかはっきりしない。初めてスコットランドの蒸留所を訪れたのは一九八八年。スコットランド西岸沖に浮かぶアイラ島のボウモア蒸留所がそれであった。当時はまだ、スコッチがどんなウイスキーなのか知らなかったし、シングルモルトとブレンデッドの違いも分からなかった。たまたま釣りに行った島がアイラ島で、そこに蒸留所があっただけの話である。

実際にすべての蒸留所を回ってみようと思うようになったのは、アイラ島からもどって文献を読み漁り、スコッチの何たるかを知るようになってから。それほどアイラ島での第一印象が強烈であった。世の中にこんな酒があるのか、と思った。煙臭く、まるで海藻のような香りがした。ちょうどシングルモルトが、世界的に注目されはじめた時期でもあった。

その初めての旅から十二年。ボウモアにはじまった私の〝巡礼の旅〟は、最南端に位置するブラッドノックで、一応の結着を迎えた。それは〝巡礼の旅〟と呼ぶのがふさわしい気がした。スコットランドを訪れた回数は二十回近く、訪れた蒸留所はのべにして三百を超えていた。私はその晩、蒸留所近くの安宿で、ひとり祝杯をあげた。もちろん、ブラッドノックのシングルモルト十年物である……。

スコッチは原料と製法から、モルトウイスキーとグレーンウイスキーの二つに分けることができる。大麦麦芽（モルト）のみを使い、単式蒸留釜（ポットスチル）で二回ないし三回蒸留したのがモルトウイスキーで、主にトウモロコシなどを原料に連続式蒸留機（パテントスチル）で蒸留したのが、グレーンウイスキーである。前者は個性が強く男性的で、後者はどちらかというとマイルドで女性的。

これは原料と製法からみた分類法で、製品としてみた場合、スコッチにはブレンデッドとシングルモルトの二つがある。シングルグレーンもあることはあるが、蒸留所の数も限られ（現在八つ）、個性も乏しく、製品化されることはほとんどない。

ブレンデッドは、モルトとグレーンというまったく性格の異なる二つの酒を、二十から四十種類近くブレンド（混和）したもので、両者の欠点を補い、万人に飲める酒とした。「ジョニーウォーカー」や「シーバスリーガル」「オールドパー」「バランタイン」など、一般に知られているスコッチのほとんどは、このブレンデッドである。

それに対して世界的に今ブームになっているシングルモルトは、一つの蒸留所でつくられたモルトウイスキーのみを瓶詰めにしたもので、他の蒸留所のモルトやグレーンウイスキーは一切混ぜられていない。蒸留所ごとにできあがる酒の風味は異なり、ひとつとして同じものは存在しない。つまり蒸留所の数だけ個性があることになり、さらに熟成に使用される樽の種類や熟成年数、カスクストレングス（樽出しの度数）か加水か、冷却濾過の有無などによって、同じ蒸留所の酒といっても無数のヴァリエーションがある。

ブレンデッドがブレンダーという人がつく

Noblesse

土屋　守（つちや・まもる）
昭和29年２月17日新潟県生まれ。学習院大学文学部国文科卒。週刊誌記者を経て渡英、ロンドンで日本語雑誌の編集長を務める。帰国後、執筆活動に入る。イギリス、スコットランド、スコッチウイスキーについての著述が多い。1998年、ハイランド・ディスティラーズ社より「世界のウイスキーライター５人」に選ばれる。主な著書に『モルトウイスキー大全』『ブレンデッドスコッチ大全』（以上小学館）、『スコッチ三昧』（新潮選書）、『イギリス・カントリー四季物語』『英国カントリーホテルの休日』『スコットランド旅の物語』（以上東京書籍）などがある。

写真（上・下）●土屋守　　アイラ島のボウモア蒸留所

る「芸術」だとすれば、シングルモルトは「風土の酒」である。

スコッチが〝世界の酒〟となったのは、一九世紀半ばに誕生したブレンデッドのおかげであったが、今スコッチは再び風土の酒に戻りつつある。万人受けする飲みやすい酒よりも、個性を主張する、よりピュアな酒へと。その消費者のニーズに応えることができたのが、スコッチのシングルモルトだったという気がしてならない。

当たり前のことではあるが、スコッチはスコットランドという風土なくしてはつくれない。千年以上続く伝統と頑固なまでの職人の技、そして美しい自然環境なくしてスコッチは存在しえないのだ。蒸留所を巡る私の旅は、そんなスコットランドの風土と文化を知る旅だったと思っている。

ボウモア蒸留所のポットスチル

特集○「自分の時代」だからもう一度

日記とは何か?

DAIARY

「日記」というと、何となく古びて、ちょっぴりカビくさく、
でも記憶のどこかでほのかに光を発しているような、
今では不思議な存在になってしまった。
個人の時代、そして自己責任といったことが
語られる現代、あらためて自己確認のツールとしての
「日記」の存在を思い出してみるのもいいのでは。
それぞれの「自分の時代」のために。

人はなぜ日記を書くのだろう。

「公の日記」と「私の日記」　客観的な記録と私的な心のドキュメント。

デパートやブックストアの文房具売り場に行くと、その一角には必ず「DIARY」と書かれた手帳のコーナーがある。DIARYは直訳すると「日記」。ただ、この種の手帳の用途は、日記帳というよりも日々の予定を書くスケジュール帳の要素が強い。それでも、予定を書き込んだ欄にはまだ余白があり、その日にあった出来事に対するコメントなどを、ほんの数行だが書きつけておけるようになっている。

そういうスタイルのDIARYが並ぶ棚のそばに、ひっそりと本来の「日記帳」は売られている。大抵はB6判ほどの大きさで、本革張りの鍵まで付いた厳めしいものから美しい花柄の婦人向けのものまで、いろいろな表紙のものが揃えられている。体裁もさまざまで、例えば三年日記といって同じページに3年間の同月同日の出来事が並べて書けるように工夫されたものなどもある。

だが、正直いってどれも結構な値段である。それだけに、こういう日記帳を買って日々、万年筆か何かできちんと日記を書く人とは、どんな人なのだろうと想像してしまう。

人が日記を書く理由は、いろいろである。ひと口に「日記」といっても日記には様々な種類のものがある。大きく分けると日記には、公の日記と私の日記とがある。前者は例えば、週番日記とか議事日記、航海日記といった公の「記録」を目的としたものである。第三者に提出し回覧されるもので、書き手も、当番という立場の複数の人間によるものが多い。

日記というより「日誌」である。

これに対して私の日記は、あくまで個人が自分のために書くものである。これは本来的には筆記者が生涯、心の中にしまっておくもので、公開する必要も意味もまったくないものである。

だが筆記者が著名人の場合などは、故人の意思にかかわらず、死後、世に出てしまうことがある。そして性格分析などの研究材料に使われ、知られざる一面を晒される悲劇を起こすのである。

そういう可能性を考えると、人はおちおち心の真実を日記に書くことができなくなる。死後ならまだ救われるものの、生前にそれを何かの理由で人に見られてしまったら、それがもとで、以後の人生が狂うことだってありえる。そうならないためには、書くたびに日記を処分してしまうのが一番だ。だが、それもそう簡単にはいかない。書いた日記をすぐに燃やすのはやはり空しいし、それでは日記を書く意味が、どこにあるのかも分らない。書くその瞬間だけが目的だというのなら、日記帳は〝心のごみ箱〟になってしまう。そう考えると「私日記」ほど厄介なものもないような気がしてくる。

それでも人は日記を書く。日記という形の中で、人は自分自身にあるいは世の中になんらかのメッセージを発信しようとする。そのメッセージとはいったい何なのだろうか。まずは日記というものがどのような形で書かれ始めたのかを見てみよう。

記 あなただったら
一体どういう体験を
日記に込めますか?

事実の記録から個人の内面の表現へ。

わが国の日記の歴史　中国から伝わり、日記体の公式記録を経て、表現の世界へ。

日記というのは、もともとは中国から渡来した言葉である。はじめて文献に現れるのは東漢の『論衡』で、孔子の『春秋』や『五経』をさしていっている。つまり、学者が研究のために資料を集めて整理し、書き表したものを日記と呼んだのである。

その一方で、周以来、朝廷では君主の日常生活や行事、言辞などを史官に記録させていた。西漢の記録に「日ニ記有ル也」とあるのがそれで「日記」という言葉では書かれていないが、日記の用例として残されている。

このように、中国では初め、日記は学問の研究記録と史官による君主の言行の記録というふたつの流れがあった。これが互いに交わりつつ次第に、教科書や教養書、随筆や雑事の記録、紀行、自叙伝のようなものまでを日記と呼ぶようになったのである。

わが国で最初の日記として残されているのは『釈日本紀』にある『安斗智徳日記』と『調連淡海日記』である。壬申の乱の頃の公の記録で、奈良時代にはこうした日記体の記録がずいぶん残されている。

平安時代には『外記日記』『殿上日記』などがそれぞれの部署で書きつがれ、鎌倉時代には幕府や武家、公家、寺院などの日記や記録類を資料にして、幕府が整理編纂した『吾妻鏡』がよく知られている。同様の形のものが室町時代にもあり『花営三代記』と言われている。また宮中では、室町末から江戸時代にかけて、女房たちが仮名で書きついだ『御湯殿の上の日記』がある。

こうした公の日記に対して私的な日記としては、正倉院文書の中に天平年間に記した漢文日記の断片が残されているという。また、留学生だった吉備真備が『在唐日記』を著したり、大伴宿祢が『大伴宿祢佐手麿記』を著しているが両者とも散逸してしまっているらしい。平安時代には、ライシャワーが推奨したという円仁の『入唐求法巡礼記』などが残されているが、これらはいずれも旅行記の色彩が濃いものである。

またこの時代、天皇、皇族、公家などの男性が、漢文の私日記を盛んに書いた。天皇のものには、宇多、醍醐から堀河天皇に至る9代の御記があり、公家のものには藤原道長の『御堂関白記』を初めとする多数の日記が残されている。こうした日記は、鎌倉時代以降も、僧侶や武家が加わって盛んに書かれた。

ところでこれらの私日記は主に、朝廷を中心とした事実の記録を主眼とするものだった。『御堂関白記』の中では、筆記者の道長がときおり感慨を漏らすことはあったが、それはあくまで公人の立場からのもので、自由に個人の感情を吐露することはまずなかったといってよい。鎌倉時代に入ると、前代よりは個人的な感想を多く交える傾向が出てきたが、日記の主眼はやはり事実を記載することに置かれていた。

では、人々が今のように、日記に自分の感情や思いを気ままに表すようになったのは、一体いつごろのことなのだろうか。

上代の万葉仮名から平安時代になると仮名が作られた。仮名は9世紀末までに、ほとんど完成したと見られ、その簡略かつ優雅な字体で言葉を正確に表現できる仮名文は、和歌などを媒体として発達した。

和歌は平安時代、漢詩文ほどではないが、和文学の中では最も公的な価値を認められており、男女ともに自己の心情を歌い上げることのできる文学となっていた。とくに、漢詩文に参入することを許されなかった女性たちにとって、仮名文で表す和歌は、最も重要な自己表現の手段だったのである。

和歌を日付順に配列し、詞書を付したものを「歌日記」といったが、万葉集の中にはすでにそういう形の大伴家持の歌日記があった。そして、以後もそうした歌日記風の内容のものが随分と出てきたが、和歌はやはり和歌であった。どんなに個人の心情を歌い上げようとも、それはごく瞬間的なものにとどまり、作者の内面の全体的な表現にはなり得なかったのである。

そうした時に登場したのが現在、私たちが私日記と呼ぶものの先駆けとなった『土佐日記』である。

『土佐日記』が執筆されたことで、以後、『蜻蛉日記』や『更級日記』、『和泉式部日記』などのいわゆる女性日記文学がこれに続くことになった。

しかしここでは「日記文学」云々については述べない。

日記文学というのは後世になって学者たちがこれらを文学的に識別研究する際に、こうしたジャンルにまとめたものであり、この時代における作者の執筆意図とは何ら関係のないことだからである。

録 自分が生きた瞬間を保存したいという気持ちもある。

旅の私的体験を記した〝旅日記〟の存在。

伝えられた日記　紀行文学とオーバーラップする〝私〟の世界の歴史をたどる。

「男もすなる日記というものを、女もしてみむとて、するなり」で始まる『土佐日記』は、紀貫之が土佐守の任を終えて、承平4年（934）12月に国府を出発し、翌年2月に帰京するまでの55日間の船旅を書いた日記である。この日記では、仮名散文と60首に及ぶ和歌を使って人間の内面や真実を具体的に描き出している。任国の人々や船頭、乗船客、出会った人たちなどの心の有り様を、時には風刺も交えて濃やかに描写しているのである。

『土佐日記』では、よく知られるように貫之が自分を女性に見立て、国守の妻の立場で日記を書いている。このように筆者が女性に成り代わった大きな理由のひとつには、先に触れた仮名文の使用事情があっただろう。

仮名による和文体は、漢文体に比べてはるかに人の肉声に近く、物ごとの全体を深く記述するのにふさわしい表現手段だった。また、この時代になると、人々の中には政治的、社会的生活とは別の個人的生活が著しく発達してきた。それにより人々は、日々の生活や自分の内面を省みることを行い始めた。それを書き表すのにより適した表現法として筆者は女性の筆、つまり仮名文体を選んだのである。

さらに、筆者の紀貫之は日記の主人公を自分でない架空の存在にすることで、本音を吐露したかったのではないだろうか。個人的生活が発達してきたとはいえ、家格が固定し、先例故実が重んじられたこの時代にあっては、「国守という公人、紀貫之」のままでは、まだまだ私的な発言はしにくかったに違いない。それで「妻」の口を借りることで、カムフラージュしたのである。こうした手法は、後に登場する道綱母の『蜻蛉日記』や孝標娘の『更級日記』でも使われている。

例えば『蜻蛉日記』では「かくありし時過ぎて、世の中にいとものはかなく、とにもかくにもつかで、世に経る人ありけり」と書き出し、自分を「人」と三人称にしたうえで、一人称のままでは露骨に書けない自分の恋愛生活を、自由に書き上げている。

また、『更級日記』は「あづまぢの道の果てよりも、なほ奥つ方に生ひいでたる人」と書き出して、やはり自身を三人称化し、姨捨伝説の姨になぞらえた自分の哀れな晩年と、それまでの生涯を淡々と回顧している。

よく言われるように彼等はこうした手法を取ることによって日記を物語化しようとしたのでは決してない。自分の気持ちや思いをできるだけ忠実に表したいがためにこの手法を考えだしたのだと私は思うのである。

ところで鎌倉時代になると、日本の政治文化の中心が鎌倉と京都に二分化した。このことにより国内の交通が活発になり、人々は公私にわたって盛んに旅をするようになった。そして、歌枕を巡り和歌を詠み、旅の感想を述べる旅日記が多く書かれるようになった。例えば阿仏尼の『十六夜日記』や後深草院の『とはずがたり』『高野日記』（頓阿著）、『富士御覧日記』（作者不詳）などがあるが、これらは以後、これまでの女性日記文学に代わる勢いで流行し、紀行文学というジャンルを作り上げていった。

室町時代には歌人や儒者、僧侶に加えて連歌師なども作者に名を連ね、江戸時代になると、戯作者や国学者、町人学者なども日記を残すようになった。そうした流れの中で、文字を覚えた庶民たちが、だんだんと日常の中の〝小さな旅〟のことを自分で書き記すようになったとしても不思議はない。実際の旅ではなくても身の回りに起きるあらゆる生活の変化、例えば花見や参詣、観劇といった娯楽も、庶民にとっては「日常」に対する「旅」だったのである。

明治以降に書かれたもので、残されている日記のほとんどは文人、作家たちのものである。著名なものでは永井荷風の『断腸亭日乗』や樋口一葉の日記などがあるが、前者は大正6年から昭和26年、つまり死の前日までにわたって延々と書き続けられたギネスブックものの長編である。一方、一葉の日記は明治24年から6年間にわたって書かれたものだがこのふたつの日記の大きな違いは、荷風の日記が、発表を予定していたものであり、一葉のものは公開するつもりのない日記だったということである。一葉は、文章を稽古するつもりで、あるいは習字をするつもりで、それこそありあわせの紙に日記を書いたそうである。だが、彼女は自分の死後はこれを焼き捨てて欲しいと言い残した。それなのに、この日記は親しい人達の判断によって、世に出てしまった。そのことについての是非を問うつもりはない。ここで考えたいのは、公開するつもりで書かれた日記とそうでない日記の、執筆の意図についてである。

QUEEN ELIZABETH RANGE
MALIGNE RANGE
Maligne Lake
Medicine Lake
Jacques Lake
Restless River
Mount Balinhard
Helmet Mountain
Sirdar Mountain
Excelsior Mountain
The Watchtower
Signal Mtn
Mount Tekarra
Shovel Pass
Curator Mtn
Amber Mountain
Antler Mtn
Mount Charlton
Mount Unwin
Llysyfran Peak
Leah Peak
Samson Peak
Maligne Mountain
Mount Hardisty
Prairie de la Vache
Fort Point
Wabasso Lakes
93
93A
Athabasca Falls
Mount Kerkeslin
Windy Castle
Honeymoon
Sunwapta Falls
ENDLESS
WINS
Marmot Mtn
Lectern Peak
Aquila Mountain
Franchère Peak
The Portal
Peveril Peak
Mount Edith Cavell
Cavell L.
Verdant Pass
Throne Mtn
Blackhorn Peak
Chevron Mountain
Oldhorn Mtn
Maccarib Pass
Mount Clitheroe
Amethyst Lakes
Thunderbolt Peak
Surprise Point
Redoubt Pk
Mount Christie
Brussels Peak
Mount Lowell
Mount Fryatt
Geraldine Lakes
Mount Belanger
Mount Lapensee
Divergence Creek
Divergence Peak
Dragon Peak
Catacombs Mountain
Lick Peak
ALBERTA
BRITISH COLUMBIA
Alnus Peak
Alnus Creek
Mount Ross Cox
Mount Scott
Mount Evans
Mount Hooker
Serenity Mountain
HAMBER PROVINCIAL PARK
Fortress Lake
Chisel Peak
Ghost Mountain
Mount Brus Crocke
Mount Mallory
Mount Ferrer
Mount Clemenceau
Mount Bruce
Athabasca Pass
Fraser Pass
Whirlpool River
Oblige
個
立ち止まったままの
自分との対話。
楽しい方がいいけれど。

日記というものが
人間の生活にとって
〝古典〟になってしまうのか。

私的な日記は〝自分の人生〟の演出メモ。

日記の効用 自己分析をしたり、混乱した感情を整理、コントロールしたり。

もともと公開するつもりで書く私日記と、そうでないものとでは、根本的にその執筆意図は違っている。公開する日記というのは、自分以外の第三者に向けて書くものであり、そうでないものはあくまで「自分」に向けて書くものである。

そして第三者に向けて書くというのなら、それは、私小説や自叙伝を発表するのと同じことだ。日記は「作品」となり、私日記としての本来の目的を失うのである。

日々自分という読者に宛てて書き続ける私日記。私日記を書く作業は、自分自身と対話をするのに似ている。自分の中のもう一人の自分に、今日一日の出来事を記述して報告するようなものである。それは、ただ出来事だけの報告の時もあれば、それに対しての意見や感想を加えるときもある。また、自分を取り巻く人々に対しての気持ちや感情や、さらには自分の行動に対する反省や考察を書くこともあるだろう。

アミエルという人の日記がある。彼は19世紀の半ばを生きたスイスのジュネーブ大学の哲学教授だが、専門の仕事では何一つ後世に残していないのに、30年間にわたって書かれた日記の内容の特異性が、彼の名を世に知らしめた。

アミエルは生涯、日記に自分の魂の記述しかしなかった。自分の身の回りに起こる外界の事象には目もくれず、自分自身との会話に没頭し、ひたむきに自己解剖を行った。「それは心理的な休息であり、娯楽であり、ご馳走であり」というように、アミエルは日記を友とし慰め手とし、時には医師として、1日の内に何度も日記を書いたのである。

人が私日記に求めるものは、ここまで極端ではないにせよ、アミエルのそれに近いものがあると思う。なぜなら、人は誰でも自分の話を聞いてもらいたいと思っている。悩みや迷いごとは話してしまうとすっきりするというが、日記はまず、その役割を果たしてくれる。日記を書くことは、日記という〝もう一人の自分〟に、悩みごとを聞いてもらうのと同じ心理的効果を得られるのである。

だが、悩みごとは書いているだけでは、人に相談したときのように、答えやアドバイスは得られないと思うだろう。ところが実は、日記を書くことで人は、悩みや問題の自己解決を行うことができるのだ。

人間は頭で物を考える動物だが、文字通りに頭の中だけで問題に対峙していると、混乱してしまうことが多い。そんな時に、それを文章にして書いてみると、意外と考えが整理されてくる。ものごとを文字に書くという作業は、人の気持ちを落ち着かせ、冷静に考えさせる効果があるのだ。だから、怒りや悲しみを鎮めるときにも、日記を書くのは効果的だ。「悲しい」とか「悔しい」という文字を目の当たりにすることで自分の心理状態を再確認でき、気持ちに区切りがつけられるからだろう。

こうしてみると、私日記には自分をコントロールするためのいろいろな効果があることがわかる。また、私日記には何より自己分析を行うのに役立つ。自分が何をどのように考えていたのかということを日にちがたってから読み返してみると非常に面白く、今後の身の振り方に活用できる。

人は誰でも〝自分の人生〟というドラマを演出している。「私日記」は言うなればそのドラマの構想メモのようなもの。ドラマが面白くなるかどうかは、そのメモをもとにした脚本づくりにかかっているといってよいのである。

文／善田紫紺（昭57史）　写真／世界文化フォト

環境保護のためだけに10年間。おかげさまで、その成果が少しずつ見えてきました。

季節によって、天候によって、時間によって、美しく表情を変える海。しかし自然の流れによって変わるのではなく、人によって、その表情にかげりを見せている海もあります。「人がいるから海は汚れる」から、「人がいるからこそ海は汚れない」へと変えていかなければなりません。海だけではなく、あなたの身近に、そして、あなたの故郷に、ごく当たりまえに存在する風景を、ずっとずっと残していくために、私たちは今日も活動しています。アムウェイ・ネーチャーセンター。それは環境保護のためだけに生まれた、もうひとつのアムウェイです。オリジナルのキャンペーングッズを販売し、収益のすべてを環境基金にあてています。国内外、計41の自然保護プロジェクトに5億2千万円を助成。10年たった今、着実にその成果が現れはじめてきました。私たちは、これからも、この「環境基金キャンペーン」をはじめ、さまざまな活動を展開していきます。美しい地球を未来に残すことができるよう、みなさまのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

Amway Nature Center

Another way of Amway

これが私たちの助成先です。【1990年】●伊豆沼・内沼サンクチュアリの創造（宮城県）●オホーツクの村（北海道）●「みどり一本」運動（東京都）【1991年】●八重山サンゴ礁復元（沖縄県）●ヤンバルの自然保護（沖縄県）●見沼田んぼランドトラスト（埼玉県）●ベルシャ湾野生生物救済基金（東京都）【1992年】●鳴ヶ谷沼トンボ保護（静岡県）●ブナの里般植樹（青森県）●釧路湿原自然ガイドシステム作り（北海道）●立山連峰の高山植物復元（富山県）【1993年】●釧路湿原自然ガイドシステム作り（北海道）●黒沢湿原保全（徳島県）●ジブチ砂漠緑化（東京都）●エコ・アップ雲仙（長崎県）●八重山サンゴ礁復元（沖縄県）【1994年】●屋久島自然保全（鹿児島県）●天神峰保護（東京都）●オニバスの保護育成（新潟県）●伊豆半島海中の森保護と復元（静岡県）●小渡堀21（栃木県）【1995年】●屋久島自然保全（鹿児島県）●白山イヌワシの森（石川県）●里山サンクチュアリ（千葉県）●トンボ王国（高知県）●池の平湿原保護（長野県）【1996年】●ヤンバルの自然保護（沖縄県）●大山山頂の植生復元（鳥取県）●八代のツル渡来地の環境復元（山口県）●クビワコウモリの猫獲コロニーづくり（長野県）【1997年】●シマフクロウの森の回廊づくり（北海道）●ツシマヤマネコの生き残れる環境づくり（長崎県）●マリモ生育環境の復元（北海道）●手賀沼自然循環再生（千葉県）●五家荘のブナ林復元（熊本県）【1998年】●白神・山の森、海の森、二ツ森づくり（秋田県）●スノーレッツの森（長野県）●小笠原の植生復元とクロアシアホウドリの営巣地保護（東京都）●水源の森づくり（群馬県）●ニッポンバラタナゴの里山保全（兵庫県）【1999年】●ウミガメの保護（大阪府）●四万十川清流を育む森づくり（高知県）●河北潟の湖岸再生（石川県）●ハンノキ林づくり（宮城県）●ヤマネの保護と森（山梨県）

アムウェイネーチャーセンター　〒150-0042　東京都渋谷区宇田川町7-1　03-5428-7290　http://www.amway.co.jp

聞き書き

この人のわが町へ！

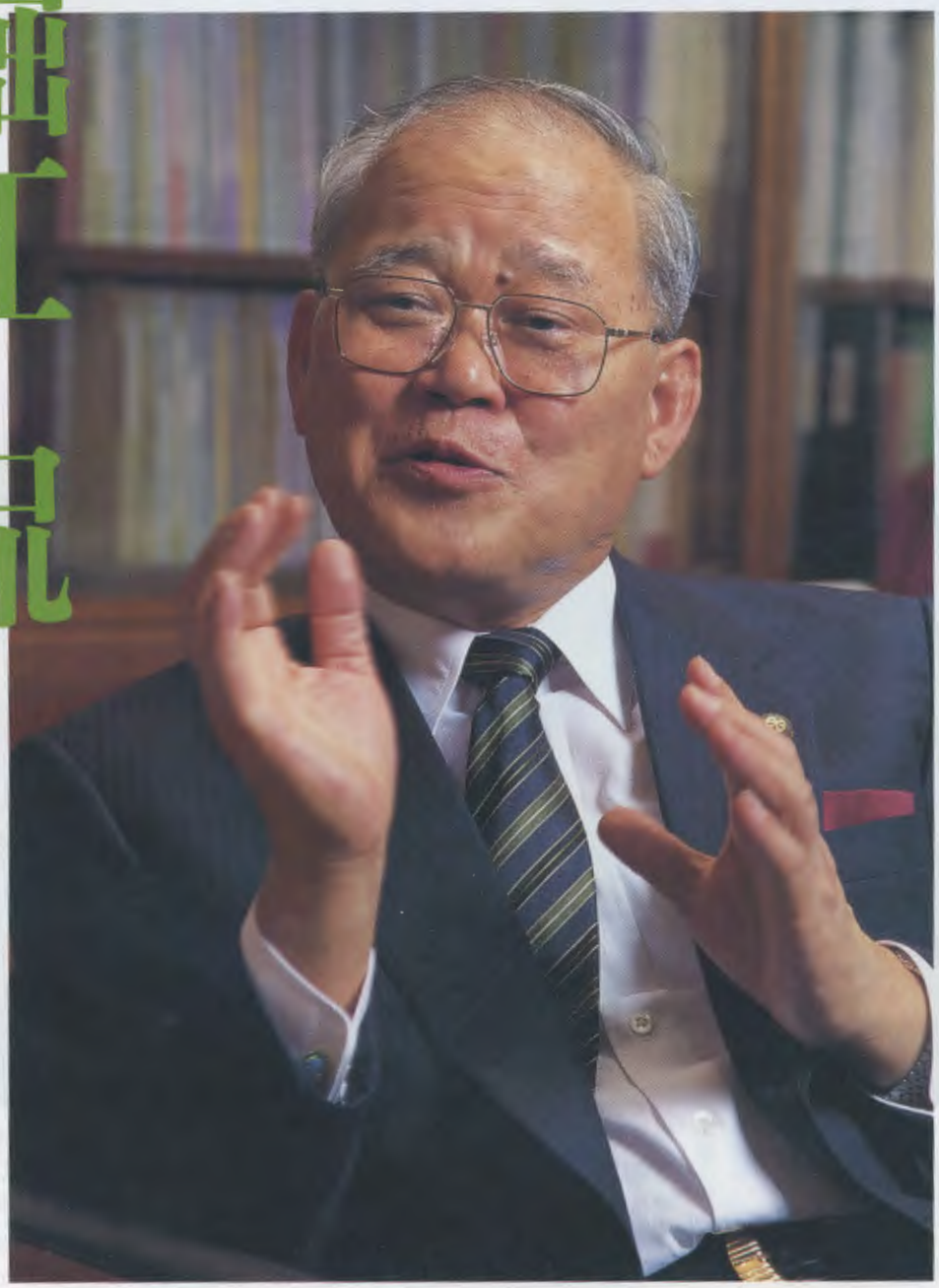
その2

ISEHARA

（神奈川県伊勢原市）

堀江侃

神奈川県伊勢原市長（昭35政）



市長の仕事とは、市民への奉仕だと思います。
つまりノーブレス・オブリージですね。
自戒と創造性、そのための権力ということを
わきまえていなくてはなりません。
私はどこへ行くにも運転手ひとりだけですよ。
その間に職員は仕事をしていなさい、と。

堀江侃（ほりえ・すなお）
昭和11年12月18日神奈川県伊勢原市生まれ。地元より学習院大学に入学。昭和35年政経学部政治学科卒業後、総理府事務官として行政管理庁行政監察局監察官付。同54年行政管理局統計審査官、同56年行政監察局監察官、同59年石川行政監察局長、同62年北海道管区行政監察局長、平成元年近畿管区行政監察局長、同2年関東管区行政監察局長。平成4年4月1日総務庁退官。同年9月20日に伊勢原市長当選、10月1日就任。同8年10月1日再任、現在3期目。同9年からは神奈川県国民健康保険団体連合会理事長、厚生省医療保険福祉審議会運営部会・老人保健福祉部会・介護給付費部会委員も務める。

ノーブレス・オブリージ。

この言葉は、市長になる前の役人時代によく使っていた言葉です。

政経学部政治学科在学中に国家公務員上級試験に合格し、行政監察の仕事、いわゆるオンブズマン制度の仕事をしていたときのことです。

民間の行政相談員の方たちとともに、行政チェックの仕事に参画していたわけですが、この方たちの仕事は、もっぱら行政への苦情を聞くというもので、それは報酬のない国民のためのボランティアなんです。

この方たちに対して、

「まさにノーブレス・オブリージですよ」

と、よく言っていたんです。

私がこの言葉を知ったのは、学習院大学の授業で、でした。

敬愛する師である法学の大沢章先生の授業は、国際法、法哲学、ゼミとすべての授業を受けたのですが、授業中の雑談の折にこの言葉を聞きました。

当時、75歳ぐらいでしたか、口髭の似合う先生でしたね。人間としての教育を、授業の雑談中に受けたんです。

――伊勢原市の農家の次男として生まれ、大学から学習院へ。在学中は片道1時間半かけて目白に通った。

学生時代は、田舎の学生でしたから地味なものでしたね。高校では弁論部に入っていたので、大学でも弁論部に入部しました。大沢先生は弁論部の顧問でしたから10回ぐらい、研究室でお目にかかったことがあります。

国家公務員上級試験に合格したことを報告にうかがったら、そのあと、大教室での授業中に「合格した生徒がうちの学

校にいますよ」と。

当時は安倍能成先生、久野収先生等、すばらしい先生方がいらっしゃった。この恵まれた環境の中で学びなおそうと、勉強はよくしました。通学電車の行き帰りは読書三昧でしたね。大沢先生の授業の雑談から現在の愛読書でもある『モンテクリスト伯』や『レ・ミゼラブル』と出会うのもこの頃です。人格主義や人間形成といったことに、興味があったということもありますが。

私立大学を出て上級公務員生活に、というのは、きわめて珍しいケースですが、在学中から「パブリック・サーバント」に憧れていたんです。自分は世渡りがうまくできないので、会社組織のなかでは生き残れないのではないか、しかし公務員ならできるかもしれないと思っていました。組織の中の人間としては合格点はつけられませんね。自分の考え方、生き方を曲げて、おせじを言ってまで、立場を求める必要はないのではないか、と思っていましたから。田舎育ちなのでそこから抜けられないのです。

しかし、それは正しい自己診断だったと思います。役人の道に進んだのは、オンブズマン制度、行政監察の仕事をしたかったことが大きいですね。

欧米ではオンブズマン制度とは、国民からの苦情処理と、マスコミ報道に対する苦情処理が主ですが、日本では、諸々の施策が国民のためになっているかという視点で、行政をチェックする仕事です。国民生活の実情にあっているか、無駄遣いがないかどうか、行政全般にわたる仕事。国民のための行政とはどうあるべきかという「あり方」論を考える仕事ともいえます。この、国民の立場でものを考える仕事を熱心にやりました。

質実剛健を〝形〟にしたような堀江市長の執務室。書棚には久野収先生の著作集も

これは常に現実との整合性を考えてきたことでもありまして、次第にこの経験を生かしたいと思うようになったのです。

――そんな折、故郷の伊勢原市から市長職への打診がある。55歳の頃だ。総務庁を退官。平成4年伊勢原市長に当選。

市長は優秀な町作りのリーダーでなければならないと思います。国民のための行政を実現することと、市民の役に立つということはイコールなんです。

行政監察の仕事は意見を申し上げるだけでしたが、市長の仕事は意見を言うだけでなく、言ったことがすぐ実行できるんです。事業を実現できる。これは全然違う立場ですね。しかし、前の経験があるから判断できる。そして、前と違う点は、結果責任を負わねばならないということです。すべて私の責任なんです。しかし、ひとつひとつ責任を果たしていくことで形ができていく。道路ひとつにせよ、市長の決断からなんです。それを生まれ育ったところでできるのですから、戻ってきてよかったと思いますね。

3期目は無投票当選でした。光栄だと思います。しかし、こういうときこそ「市民への奉仕」の精神、まさにノーブレス・オブリージが大切です。一層の自戒と創造性、そのための権力であるということを忘れてはならない。きちんとわきまえていないといけませんね。

――今の学生へ言いたいことは――。

今思えば、学生時代はこの立場できちんと仕事をするための勉強の期間だったと思います。卒業後初めてキャンパスを訪れたら、学生たちがやけに明るかった。それを見て軽すぎるんじゃないかという第一印象をもちました。大学時代は、楽しい4年間であると同時に、自分の道を見極めるためにしっかり勉強してほしいとも思いますね。ただエンジョイするだけでは、私の期待する学習院大学の学生ではありませんよ、と。

大学時代にしか身につけられない人間としての生きざまを見定めてほしいと思います。私が良き師に出会えたのも勉強する意志があるからこそできたんです。自分で良き師を選ぶということは、見定めるということなんですね。専門知識は本を読んで勉強できます。しかし、先生の雑談あってこその授業、そこから、人生体験に基づく人生の知恵をなぜ吸収できないのか、と申し上げたい。耳を澄ませて授業を聞くべき、と思いますね。

ノーブレス・オブリージという言葉も、読むべき本についても、私はそういう雑談から学びました。そういう意味では、学習院はわが心の故郷です。学習院で精神を耕された生徒だと思っています。

伊勢原は多くの武将を輩出しているが、最も有名なのが江戸城を築城した太田道灌だ

伊勢原市庁舎に隣接して建つ伊勢原市民文化会館。来訪者を太田道灌像が迎える

DATA BOX ―― 伊勢原市

●昭和46年、県下15番目の市として誕生。当時の人口4万5103人。現在の人口は約10万人。小田急線伊勢原駅が市の中心地区への下車駅。

●市内には〝大山詣で〟で有名な大山阿夫利神社、日本三大薬師のひとつとされる日向薬師があり、多くの観光客が訪れる。平成7年の調査によれば、年間の観光客数は170万2258人。ちなみに市の最高地点は大山の山頂で、1251・7m。立地条件の似た長野県茅野市とは昭和61年より姉妹都市となっている。

●健康ブームの昨今、新宿から小田急線で約1時間という好立地のため、大山などへの軽い山歩きを楽しむ人たちが急増中だ。

インタビュー・構成／吉江真理子（昭51仏） Photographer／Shigeki Kawakita

明日のむこうに見えるもの。

心が豊かだとあったかいね。
明日への活力があふれる
夢を育むコミュニケーション。
創造力を「カタチ」にするちから。
わたしたち共同印刷は
みんなの生活に彩りと
楽しさを贈りつづけます。

人へ・未来へ・コミュニケーション

KYODO PRINTING CO.,LTD.

共同印刷

〒112-8501 東京都文京区小石川4-14-12 電話案内台 03-3817-2111

当社のインターネットホームページアドレス(URL)はhttp://www.kyodoprinting.co.jp/

桜友会だより

ピックアップCOLUMN

青森桜友会

17年ぶりの青森での公開講演

NHK解説委員の平野次郎さんの巧みな話術に魅せられたひととき

青森桜友会会長
菊池　武弘（昭32経）

第54回 学習院公開講演開催

島津院長・平野次郎氏・久保治彦常務理事を囲んで記念撮影

9月9日、弘前市内にあるホテルニューキャッスルにおいて、青森では実に17年ぶりになる「第54回学習院公開講演」が開催されました。

開催地、青森といえばリンゴ。しかしそれだけではなく青森市の「ねぶた祭」、弘前市の「ねぷた祭」などの祭でも全国に知られています。実は知る人ぞ知るお祭り県の青森は、この2大祭の他にも、古い形を残した数多くの祭があります。そんなお祭り好きの青森県人の性格も反映してか、今回の公開講演も大盛況でした。

今回の講師は、学習院常務理事の久保治彦氏、NHK解説委員で学習院女子大学特別専任教授の平野次郎氏のお二人です。久保氏の演題は「中央銀行はお役所か」というもので、内容的に非常に今の時代にマッチしたものでした。平野氏は「私たちが生きる時代」と題して、難しい現代を平野氏流の解釈でわかりやすくお話くださいました。

14時から始まった公開講演は16時過ぎに終了。2時間以上に渡る講演も、二人の講師の興味深い内容にあっという間に感じました。

その後、第2部として「卒業生・在学生父母の集い」として1時間ほどの時間がとられました。そして、18時から合同懇親会が学習院と青森桜友会の共催で行われました。田島義博専務理事の挨拶で会が始まり、次に菊池武弘青森桜友会会長の乾杯の音頭で懇親会に移りました。

普段はあまり会えない友人たちにも会える良い機会だったこともあって、会は時間の経つのも忘れるくらいの盛りあがりでした。

今回の公開講演は17年ぶりの青森開催ということもあってか400名程の方が集まり大盛会の内に幕を閉じました。

また、この講演会に先立ち7月11日に定時総会、9月18日には臨時総会も開催されて、熱のこもった意見が交わされました。この熱意がそのまま公開講演にもつながり、今回の大成功になったのでしょう。主催者の青森桜友会の方々、講演会に参加してくださったみなさん、ご苦労様でした。

なつかしのキャンパス再び
伊勢丹
ISETAN

会員の半数以上が女性という華やかな雰囲気が自慢の桜友会。

今年で創業114年を迎えた「伊勢丹」。「ファッションの伊勢丹」「マーチャンダイジングの伊勢丹」という百貨店として培ったノウハウを生かし、百貨店業のみならず、その事業内容はさまざまなテリトリーに渡っている。今、21世紀に向けて更なるリーディング・カンパニーを目指す。

昨年12月に行われた「奥川先輩を送り出す桜友会」での集合写真

円卓を囲んでみんなでチーズ！

「伊勢丹桜友会」は2000年現在、昭和41年入社から平成12年入社まで総勢91名という大所帯です。その内、女性は53名と会の半分以上を占めており、華やかな雰囲気が我が桜友会の自慢です。

「伊勢丹桜友会」は、毎年1回不定期に参集し、会員相互の近況報告を中心とした情報交換会を開いて参りました。

しかし、百貨店という業界は各自の休みがバラバラで、しかも就業時間も様々ですので、社内桜友会を開くときは、各会員の日程調整に幹事は大変苦労いたします。

伊勢丹というと「デパート」という一言でまとめられがちですが、実はその職種は非常に多岐に渡っております。我が桜友会のメンバーも、総務・人事・宣伝・外商・本支店や海外店というように、さまざまな部署に所属しておりますので、円滑な社内業務にも大変役立っております。日頃はなかなか顔を合わせる機会がありませんが、桜友会の席では仕事の話からプライベートの話まで、笑いの絶えない会話で盛り上がり、とてもフランクな会となっております。卒業して何年経っても、母校のつながりはあたたかく、このフレンドリーな関係は大切にしてゆきたいと考えております。

これからは、さらなる女性会員の出席率の向上と年2回の社内桜友会開催を目指して、交流を図ってまいりたいと考えています。

文／鈴木孝博（昭56営）

爽やかな表情が実に印象的

株式会社伊勢丹

創業は明治19年（1886）。神田旅篭町に構えた間口がわずか二間という「伊勢屋丹治呉服店」がその前身。関東大震災後、現在の百貨店形式になり、昭和8年（1933）に現在の新宿店をオープンさせた。今年で創業114年を迎える伊勢丹は、新宿・立川・吉祥寺・松戸・浦和・相模原・府中に店舗をもつほか、ジェイアール京都伊勢丹をはじめとするグループ企業やロンドンやパリなど海外ネットワークをもち、グローバルな活動を展開している。企業スローガンは「毎日が、あたらしい。ファッションの伊勢丹」。

本店：東京都新宿区新宿3-14-1
資本金：350億円
従業員数：5115名
ホームページ：http://www.isetan.co.jp/

歴史を感じさせる伊勢丹新宿店

「伊勢丹桜友会の夕べ」潜入ルポin新宿

社内桜友会名簿を片手に自己紹介

今回幹事を務めた鈴木孝博さん。「今後は50名を越える社内桜友会を開きたい」

仕事を終え相模原から駆けつけてくれた女性もいた。感激！

さすが「ファッションの伊勢丹」。カメラのアングルにも敏感だ

自己紹介のトリを務めた細谷さん。今までもらった辞令は24枚だとか

「1＋1は？」「2！」でニッコリ記念撮影。笑顔が素敵な皆さんだ

アットホームな雰囲気で、故郷に帰ったような2時間

平成12年9月19日20時から、東京・新宿の伊勢丹本館7階レストラン「ISETANプチモンド」で伊勢丹桜友会が開かれた。

百貨店業で就業時間が個々人でまちまちであるため、集合時間に集まっていたのは5人。幹事の鈴木さんからは20人位出席すると聞いていたので、ホントに集まるのかと一抹の不安を感じた。そんな気持ちを察してか、今回の取材をコーディネートしていただいた田中さんがひとこと、「まあ、最初の集まりはこんなもんダヨ」。その言葉どおり徐々に学習院の仲間が集まり始め、20時45分から年齢の若い順に仕事の近況報告を兼ねた自己紹介が始まった。

「覚えることがとっても多い」と入社2年目の心境を述べた岡田さんを皮切りに、今の仕事への憧れや、職場や学校での思い出話などに花が咲いた。また、入社5年目の藤本さんはちょうど誕生日と重なり、みんなで「ハッピーバースデイ」を歌ってお祝いするというれしいハプニングも。

自己紹介のトリを務めた細谷さんは、「学習院のよいところは人数が少ないこと。いつも話し合える仲間を大切にしてほしい」と述べ、また「女性会員がたくさん来てくれてうれしく思う」という言葉で締められた。

当日は、遠く相模原から仕事を終え駆けつけた女性会員もいた。とかくこのような社内桜友会は年長の出席者が多いが、今回の桜友会は若手会員の出席率が高く、とてもうらやましく思えた。

年長者が若手を温かく迎え入れ、彼ら彼女らの話をよく聴いている。それが伊勢丹桜友会のよい雰囲気を作っているのだと実感した。

参加者の顔ぶれ（敬称略）

細谷光太郎	（昭42済）	伊勢丹Ｉカード
池原　清夫	（昭46法）	相模原店総務部
豊田　正典	（昭46済）	外商統括部管理担当
田中　英介	（昭49法）	外商統括第Ｉ営業部
鈴木　孝博	（昭56営）	MD統括婦人第３営業部
神田　尚哉	（昭57営）	MD統括婦人第４営業部
藤村　摩也	（昭58済）	バーニーズＪ
亀田　真理	（平２心）	MD統括婦人第Ｉ営業部
鈴木　優介	（平４政）	MD総括婦人第３営業部
宮川　　桂	（平４政）	営業本部販売促進部
藤本　武志	（平８法）	MD統括ベビー子供用品
渡部　真美	（平９法）	MD統括婦人第２営業部
白浜　悠美	（平９短）	MD統括婦人第２営業部付
服部由布子	（平11法）	相模原店営業統括部子供服
岡田英里子	（平11短文）	MD統括食品営業部
門田　智子	（平11短国）	相模原店営業統括部婦人服

明治以来の歴史と伝統を誇りに、チャレンジスピリットを抱きながら、新しい歴史を刻む「漕艇部」。

思い出サークルめぐり〈その1〉
漕艇部
SOUTEI-BU

平成10年、イギリスのイートン校と高等科漕艇部で親善試合を実施

学習院の部活動で最古の歴史をもつ「漕艇部」。その歴史は、明治24年11月の東京府尋常中学校（都立日比谷高校）学友会の第1回競漕会に参加したことから始まった。

発足当初の名称は「端艇部」。明治25年には、部で初めてとなる端艇3隻（いぶき、のわき、はやち）を新造した。当時端艇を持っていた学校は、東京帝国大学や高等商業学校などの2、3校。大変貴重なものであったことは想像に難くない。

同年10月、皇太子殿下（大正天皇）の臨席を仰ぎ、墨田川で進水式が行われた。この時、殿下から賜った御下賜金で「優勝旗」を製作。明治27年の「輔仁会端艇競漕会」からこの優勝旗争奪戦が繰り広げられ、以後毎年競漕会が開かれるようになった。

明治33年に名称を「水上部」に変更。明治41年の「全国中学校選手競漕大会」参加をきっかけに、対外的な活動も始まった。大正13年「第1回全日本スカール選手権」を獲得。以後、昭和3年からおよそ10年に渡り選手権を獲得し「スカール王国学習院」の名をほしいままにした。

昭和18年には、現後援会会長の中野新一郎氏が、海の記念日海洋競技大会スカール競漕で、全日本選手権保持者を破り、戦時下最後の錦を母校に飾ることになる。

昭和24年、大学開設と同時に大学水上部が発足。戦前に続いてスカールでたびたび全日本選手権を獲得し、伝統を保持した。空襲で端艇が焼失したため、しばらく借艇での練習だったが、26年にOBと学校の援助でフォアを建造。28年には後援会も発足し「漕艇部」と改称した39年、埼玉の戸田ボートコースに艇庫が完成し、今年7月まで、30余年に渡り部員たちの活動の場となった。

昭和30年代以降は戸田レガッタ、全日本大学選手権などでスカール、フォア、エイトでの優勝や上位進出、そして62年の全日本軽量級選手権では対抗エイトで準優勝と活躍している。近年では女子部員の活躍も目立つようになっている。

海外交流も積極的で、平成10年10月、高等科漕艇部はイギリスの名門パブリックスクール「イートンカレッジ」のボート部と親善試合を行った。イートンクルーの強さを見せつけられた試合だったが、試合後は大いに懇親を深めた。

明治以来の歴史と伝統をもつ「漕艇部」。新艇庫完成をきっかけに、更なる飛躍を期待したい。

8人で漕ぐ競漕用ボート「エイト」の競技風景

スカール：左右2本の櫂を1人、または2人で操って漕ぐボート。フォア：4人用のボート。エイト：8人で漕ぐ競漕用ボート。レガッタ：ボート、スカール、ヨットなどの競技会。

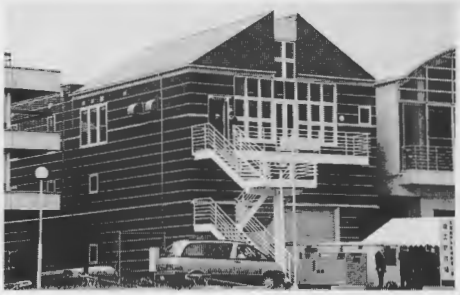
平成４年の大学選手権
対校エイトクルー

昭和57年の全日本大学選手権。対校エイトクルー

HOT NEWS

学習院新艇庫が埼玉県戸田市に７月完成!

平成12年７月28日、埼玉県戸田ボートコースに「学習院戸田新艇庫」が完成した。旧艇庫は、東京オリンピックが開かれた昭和39年に漕艇部や多くのＯＢの協力により建てられたが、築後30余年を経て老朽化。学習院21世紀基金へのＯＢの寄付活動が実って、学校施設として昨年建て直しが決定された。今年１月の地鎮祭から半年あまりで完成。周りには東北大や法政大、東大などの艇庫が立ち並んでいるが、中でも学習院の「新艇庫」は爽快な青い外観が印象的で、ひときわ立派な雄姿を見せている。



新艇庫に寄せられたOBの想い

学習院漕艇部後援会会長　**中野新一郎**（昭22旧高）

学習院輔仁会漕艇部は、昭和23年の後半までは「水上部」として学習院の中でも古い歴史をもった運動部のひとつで、戦前は尾久に艇庫をもち、対外試合はもとより院内レース等が活発に行われておりました。

昭和24年の大学設立と同時に対外試合に積極的に参加し、小笠原長武（昭27政）、島野卓爾、今泉季正（昭28政）氏等がスカール、フォアに出場し活躍され、同時に後輩の指導と将来を考えて漕艇部後援会の組織化に並々ならぬ努力をなされました。

初代の後援会会長に元埼玉銀行頭取の故・秋元順朝氏（大14旧高）が就任され、今日の基礎を作られました。後援会もやがて50年目を迎えようとしています。

現在会員は４００名を超え、みな学生時代にエイトやフォア、スカールにオールを握って青春を謳歌した者ばかりです。今年７月に会員の浄財をもとに、学校当局の協力を得て、埼玉県の戸田ボートコース脇に待望久しい「新艇庫」が完成し、学習院の学生の健全なるスポーツ施設として活用されますと共に、輔仁会漕艇部の基地として対外試合に活用していただきたいと願っております。

現在は、高等科漕艇部と大学漕艇部が一体となって、装い新たな艇庫で選手の強化に後援会も鋭意取り組んでおります。

今年１月の新艇庫建設起工式のスナップ。写真右から３番目が中野会長

昨年12月に輔仁会館1階で開かれた桜美会合同展記念パーティー

思い出サークルめぐり〈その2〉

美術部

BIJYUTSU-BU

日本文化発展の先駆をなした偉大なる白樺派の功績を継承し、新しい文化創造を成し遂げてきた美術部。

昭和41年に行われた輔仁会美術部の夏合宿

昭和42年、日本橋高島屋でオール学習院美術展を開催

学習院大学名誉教授で元美術部長・林友春先生の言葉を借用させていただきます。

「学習院は戦後一般に開放されましたが、ややもすればその教育目的が明確を欠くようになったと思われます。しかし学習院にとっては、旧学習院のその日本的伝統文化の香りと、明治以降の新しい文化創造への率先開発という学習院本来の精神を再認識し、世界文化の発展に貢献するのが、最も相応しい教育目的であると考えられます。中でも、かつて日本に西洋美術・音楽・文芸を招来し、日本文化発展の先駆をなした白樺派の人達の功績を継承する学習院輔仁会の美術部は、音楽部と共に、全学の文化活動の中心となって、一人学習院のみならず、日本の文化発展に努力してきたことは、忘れてはならないことと思います。この美術部は、浩宮皇太子殿下が学習院幼稚園に入園され、絵を発表されたのを契機に、以来しばしばオール学習院美術展を開催してきました」

林先生のお言葉のようにわが美術部は、日本的伝統文化の香りを基調に、明治以降の新しい文化創造への一翼を担ってきたという自負があります。今年制作した「学習院美術部卒業生名簿」から諸先輩の御名を挙げてみますと、錚々たる人物がアトリエにて絵を描いていたのが分かります。大正15年高等科卒の故入江相政氏、昭和2年高等科卒の故徳川義寛氏、故鍋島直康氏などの方々の御名が見えます。そして昭和20年代過ぎに、現在の様相になって参りました。

今回発刊された美術部卒業生の名簿には、1100名の名が載っています。指導者は、戦中から戦後にかけて、故富永惣一先生（元国立西洋美術館長）、洋画の故岡常次、日本画の今田直策の両先生、さらに昭和20年代からは故石川滋彦先生（新制作協会）、故是永伸一先生、故新木正之介先生、林友春先生などの方々がおいでになり、故石川先生は毎週土曜日に絵の批評会でご指導され、会が終了すると先生の奏でるアコーディオンに合わせ、屋上でホウキダンスなどをしました。

夏の合宿は、志賀高原の丸池ロッジや石の湯山荘等々で開催し、1週間の合宿中に描いた力作の批評会と合宿最後の晩の納会での寸劇がよき

HOT NEWS

現役部員の名作が一堂に「ブルジョワ展」8月に開催!

平成12年8月25日から27日まで東京の新宿区民ギャラリーで「ブルジョワ展」が開催された。学習院美術部の現役部員の作品も多数展示された今回の展覧会。会場に足を踏み入れると、若い熱気が会場いっぱいにみなぎっていた。学習院美術部は絵画や陶芸作品、パイプを使ったオブジェなどを出品し、創造力の高さをアピールした。

目白のアトリエよ、永遠なれ!

美術部の歴史を見続けてきたシンボル的な存在のヴィーナス像

アトリエに通じるたった一つの通路となる螺旋階段

夏休み中も創作意欲を燃やす美術部の現役部員の人たち

茶色の粘土が見る見るうちに徒利へと姿を変えていく

美術部名物の陶芸窯は部室の移転とともに撤去されるとか。残念……

歴史を感じさせる黒板にはスケジュールがビッシリ

思い出です。帰りの夜行列車の中で、眠らずに将来の思いを語り明かしたことが走馬燈のように思い出されます。当時の大学美術部の展覧会は、秋の大学祭とオール学習院展が主要でした。特に都内の有名デパートで開催されたオール学習院展は幼稚園から大学、短大、教職員と関係者一同の発表会になりました。外部団体・企業の方々達と交渉したり、OBの著名な先生方（武者小路実篤氏ほか多数の方々）の絵を借用したり、会場も採算の合わない点も特別なお取計らいでご協力をいただき、無料でいろいろとご配慮いただきましたことに感謝しながら、社会勉強をさせていただきました。どんな展覧会でも出品される作品だけでなく、裏方の絵の飾り付けや配置などにも各人の人間性が表れ、興味深いものです。

現在の美術部アトリエは、10月頃できたアトリエに移転します。これを機会に、今後も現役学生と桜美会とが協力し、学習院の文化活動の発展に役立ちたいと思っております。

文／渡辺伊佐保（昭43済）

美術部100年の重み

桜美会会長

竹内敏郎（昭33経）

輔仁会美術部の創設は、院史によれば昭和２年とされていますが、その前身の桜虹会が明治36年頃の創設とありますから、その歴史は 100年前に遡り、大正期には文学者、美術家による白樺運動を興し、日本に初めて後期印象派等の西洋美術を紹介するなど、わが国美術界に大きな足跡を遺しています。この秋に移転が決まったアトリエは、昭和６年の竣工ですから、旧アトリエは70年近くに渡って我々の活動の場であったわけです。

戦後、学習院の整備拡充に伴い、卒業部員数も大幅に増え、OB・OGを束ねることも困難となりましたが、昨年暮れ、新たに「桜美会」の名称の下に1100名に及ぶ卒業部員組織が再編されたことは喜ばしいことです。当面は財政面の制約から、院内に会場をお借りして年１回のOB現役合同展を開催してゆく予定ですが、やがては昭和46年の第14回を最後に中断した「オール学習院美術展」を復活再開させることを念願しています。美術制作の醍醐味は、題材と向き合い、個々人の感性と技量によって作品を完成させてゆく喜びにありましょう。卒業生の個展やグループ展も年々大変盛んであります。「桜美会」が、学習院の文化活動の中核として益々充実発展してゆくことを心から願っております。

櫻友クラブは、クラブ会員のために、さまざまなイベントや、
会員相互の交流がはかれる楽しい企画を考えています。
このオブリージ・クラブはそんな誌上クラブなのです。

INFORMATION イベントのお知らせ

櫻友クラブ〈日本の伝統文化に触れる集い〉平成13年1月17日／明治神宮

非公開の小笠原流「弓始」を拝見

添付はがきでお申し込み下さい!!

小笠原流の武家伝統をご覧になりませんか?

来年はついに21世紀、新しい時代への幕開けです。未来を見つめるとともに、日本の伝統文化の素晴らしさを味わい、新年を一緒にお祝いしようと思います。

小笠原流は明治のはじめより華族女学校、学習院女学部、女子学習院において作法を伝授された、いうなれば学習院の伝統礼法を築かれたお作法の流派です。その小笠原流宗家に八百余年伝わる、武家伝統の儀式のひとつが「大的式」です。「大的式」は〝弓始〟ともいわれ、公家・武家にとっては重要な儀式でした。式はご神前にて修祓などが行われたあと、「大的式始めませ」と宣言し、射手は作法にのっとって矢をひく、という神聖な行事です。

通常は明治神宮・萩の庭にて非公開で行われるものですが、今回は特別に拝見させていただけることとなりました。

平成12年の「大的式」は残念ながら雨天のため中止でした。来年こそはぜひの思いをこめ、皆様お早めにお申込み下さい。先着50名様です。

《日時》平成13年1月17日（水）、13時から約1時間を予定。《場所》明治神宮萩の庭。《参加費》2000円（お祝い金）。《問合せ》☎03・3376・6086（桑原啓子／昭33政）☎03・3988・3288（桜友会事務局）

「大的式」は明治神宮にて毎年1月17日に行われる小笠原流の伝統儀式

千葉県の「柏ゴルフ倶楽部」でナイスショットをぜひ。

第10回櫻友クラブゴルフ大会、11月21日に開催

すっかり恒例行事となった「櫻友クラブゴルフ大会」。毎回、多数の会員の方が参加され、芝生の上で白熱したゲームを繰り広げられています。そのゴルフ大会も、今回で記念すべき10回目。今回は、11月21日（火）に千葉県柏市の「柏ゴルフ倶楽部」を会場に開催されます。

柏市は、千葉県の北西部に位置する人口32万の市。市の中心部である柏駅周辺にはショッピングセンターが建ち並び、大変なにぎわいをみせる一方、周辺には、多くの水鳥が飛来する手賀沼やコスモス畑が美しいあけぼの山公園などがあり、豊かな自然にも恵まれたベッドタウンでもあります。

会場となる柏ゴルフ倶楽部は、北総の台地に位置する林間コース。コースは松林で囲まれており、フェアウエーは広くまとめやすいコースです。

さわやかな秋空の下、爽快な芝生の上で心地よい汗を同窓の仲間たちと流してみませんか。

《日時》11月21日（火）8時48分スタート。

《会場》柏ゴルフ倶楽部（千葉県柏市若柴228）。☎0471・31・3121。

《会費》5000円。

《申込み・問合せ》グローバルエンタープライズ・大石智一（秘書　山本）／昭55済（☎03・5468・5005）まで

さわやかな秋空の下、
柏ゴルフ倶楽部で
汗を流しませんか?

REPORT 催事の報告

櫻友クラブ主催<日本経済の最先端に触れる会> 9月20日(水)／東京証券取引所

東京証券取引所の見学会報告

これまでの、伝統文化に触れることを中心とした櫻友クラブの催事とは少し色合いの変わった、今回の「東京証券取引所の見学会」。長い歴史を積んだ重厚な感じの建物の外観とは異なった、まさに世界につながる日本経済の最先端の、東証の中を覗いてみよう。

ようやく秋の気配が感じられるようになった9月20日、ニューヨークのウォールストリート、ロンドンのシティと並ぶ世界経済の中心地、日本橋兜町に50名近い桜友会会員が集まりました。この度は、東京証券取引所という場所柄、気のせいか男性の方も普段よりも多く出席なさっているように感じられました。

午前10時、証券取引所の見学会が始まりました。

初めに2階の東証プラザで簡単な全体的説明を受けた後、昨年4月までは立会場だった、現在は東証アローズと名を変えた取引場を回廊からぐるりと見て回ります。立会場時代の賑やかさが嘘のように、静まり返った取引場がそこにはありました。みなさんも、あまりにも人が少ないことに驚きを隠せないようで、しきりと係の方に今まで立会取引をしていた方たちはどこに行ったのか尋ねる姿が見られました。今の東証アローズには、取引の透明性を象徴する、ガラス張りの円筒形の施設があり、その中で数人の方々が取引の監視業務を行っています。

見学の終わりに、スクリーンを使った東証の説明と、調査部長の市場説明があり、最後に東京証券取引所理事長の土田正顕氏がお話になりました。実は土田氏ご自身も昭和27年に学習院中等科をご卒業になった桜友会会員で、顔を見知った先輩・後輩を目の前に、懐かしい昔のお話をなさいました。

11時30分過ぎに見学会が終了し、場所を日本橋人形町の親子丼で有名な「玉ひで」に移し参加者全員で昼食をいただきました。お忙しい中駆け付けて下さった元農林水産大臣の島村宜伸氏（昭31政）の乾杯の音頭で食事が始まりました。みなさん、それぞれの証券取引所の感想などをお話になりながら、美味しい親子丼に舌鼓を打ちながら、会は幕を下ろしました。

島村氏の乾杯で、賑やかに「玉ひで」での昼食の会は始まった。右は桜友会の村上智也（昭31政）副会長

まさに経済の最先端、ＩＴ化の最先端を走る東証アローズの内部。奥のスクリーンには「歓迎 学習院桜友会 櫻友クラブ」の文字も

東京証券取引所【TOKYO STOCK EXCHANGE】
住所◇東京都中央区日本橋兜町2-1
休業日◇土・日曜、祝日、年末年始
見学時間◇9～16時
インフォメーション・テラス利用時間◇9時～16時30分
料金◇無料
問合せ◇東京証券取引所総務部広報室　☎03・3665・1881

第2回八王子桜友会
「講演と懇親の集い」
11月5日(日)に開催決定

11月5日、第2回八王子桜友会「講演と懇親の集い」が開催されます。学習院大学法学部の藤竹暁教授（昭30政）の講演会と懇親会を開く予定です。《日時》11月5日（日）17時～。《場所》京王プラザホテル八王子。東京都八王子市旭町14－1。《懇親会費》1万円。《申込み》http://oukai.etc.gakushuin.ac.jp/chiiki/hachioji.htm（八王子桜友会ホームページ）

山形の公開講演に続いて2回目の登場の藤竹教授

湘南桜友会へ発展予定!
楽しい夜を古都鎌倉で

10月14日、鎌倉パークホテルにおいて、湘南さくら倶楽部主催「黒田美治を囲む会」が行われました。18時からのディナータイムにはじまり、黒田美治氏（昭23旧中）の演奏に聞き惚れ、楽しい時間が過ぎていきました。

湘南さくら倶楽部は湘南地域に住む桜友会員有志の集まりで、現在会員は約40名程度。将来的には湘南桜友会という形に発展していくということです。1日も早い結成をお待ちしています。

「たつのおとしご会」の仲間たちが大集合!

8月5日、東京・渋谷のエクセルホテル東急に演劇界で活躍中の「たつのおとしご会」のメンバーが集まりました。今回の集いは3名の会員のお祝いの会。永井芳枝氏（昭42仏）、角野卓造氏（昭46済）、宮田慶子氏（昭55国）がそれぞれ日本演劇学会河竹賞、読売演劇大賞最優秀男優賞、文化庁芸術選奨文部大臣賞新人賞を受賞されたためです。普段のテレビや写真では見られないような大きな笑顔を見せながら、気軽な仲間たちと楽しいお話に花が咲いていました。

第19回経済学部会総会
11月20日に開催。

11月20日の18時から、学習院創立百周年記念会館3階で「第19回経済学部総会」が開催されます。学部卒業生を対象に毎年総会を開催。総会後に催される講演会には、各界で活躍している卒業生を講師として招いており、過去には「オックスフォード大学に学んで」というテーマで皇太子殿下も演壇に立たれています。

今年の講演会に東京女子医科大学長の高倉公朋氏（昭26高）を講師に迎え、「"脳の新しい科学" ―老から守るために―」をテーマにお話いただきます。講演会の後には懇親会も予定されておりますので、奮ってご参加ください。

《日時》11月20日（月）18時～総会、18時10分～講演会、19時20分～懇親会。
《場所》学習院創立百周年記念会館3階。
《会費》6000円（平成8、9年卒の方は3000円、平成10、11、12年卒の方は1000円）

多彩な講師が招かれる総会

仏文科出身の作家も出品!
第23回日本きりえ美術展

11月25日から12月1日まで、東京都美術館で「新しい造形美術－第23回日本きりえ美術展」が開催されます。学習院大学フランス文学科出身のきりえ作家・河瀬和世氏（昭50仏）も作品を出品。紙が創り出す独特の世界をぜひ1度。

《日時》11月25日（土）～12月1日（金）、9～17時。
《会場》東京都美術館（上野公園内）。
《入場料》600円。
《問合せ》☎03・3645・7667（稲垣方）

美しいきりえが一堂に（案内はがきより）

第128回大学公開講座
11月11日に学習院大学で

11月11日の13時から、「第128回大学公開講座」が開催されます。〝ミレニアム「日本的経営」を考える〟をテーマに学習院大学経済学部の湯沢威教授と内野崇教授が講演される予定です。新たな「日本的経営」を模索してみては。

《日時》11月11日（土）13時～16時10分。
《会場》学習院大学北1号館4階401号室。
《聴講費》無料。　《定員》220名。
《問合せ》☎03・3981・1189（豊島区教育委員会生涯学習課）

INFORMATION イベントのお知らせ

桜友会創立80周年記念事業

卒業生による座談会のお知らせ

今年のテーマは、「学習院の継承すべき伝統と文化」ーこれからの学習院ー

河野博文氏
（昭39高）

坂本多加雄氏
（昭55大学助教授として着任）

今橋映子氏
（昭59仏）

平井敏雄氏
（平６独）

司会／児玉　清氏
（昭33独）

桜友会は平成12年西暦「2000年」に創立80周年を迎えました。

桜友会は平成12年（2000年）に創立80周年を迎えました。その記念事業のひとつとして、一昨年より実施されているのが「卒業生による座談会」です。毎年、学習院に縁のある著名人を迎え、多くの人に感銘を与えてきました。第３回となる今回は、卒業生に加えて学習院大学の協力のもと、「ーこれからの学習院ー」をメインテーマに、21世紀に伝えておくべき学習院の伝統と文化をみんなで考えようというものです。座談会の後には、懇親会も予定されています。

＊　　＊

座談会出席者は以下の方々を予定。

●河野博文氏

昭和39年、学習院高等科を卒業。現在、資源エネルギー庁長官。

●坂本多加雄氏

昭和55年、学習院大学助教授として着任。現在、学習院大学法学部教授。

●今橋映子氏

昭和59年、学習院大学文学部フランス文学科を卒業。現在、東京大学総合文化研究所助教授。

●平井敏雄氏

平成６年、学習院大学文学部ドイツ文学科を卒業。現在、学習院大学文学部ドイツ文学科助手。

●児玉　清氏【司会】

昭和33年、学習院大学文学部ドイツ文学科を卒業。現在、俳優。

＊　　＊

《日時》平成12年11月25日（土）、13時開場、13時30分開演。入場無料（どなたでも入場できます）。

《場所》学習院創立百周年記念会館正堂。

＊満席の場合は入場をお断りする場合もあります。

《問合せ》桜友会事務局

〒171-8588東京都豊島区目白1-5-1　学習院内。☎03・3986・0221（内線2547）、FAX 03・3988・3853。【桜友会ホームページ】http://oukai.etc.gakushuin.ac.jp/【e-mail】oukai1@gakushuin.ac.jp

過去2年間の座談会の内容は小冊子にもまとめられている

桜友会80周年記念式典と祝賀会のお知らせ

桜友会創立80周年を記念して記念式典と祝賀会（桜友会新年会を兼ねる）が行われます。

【記念式典】

日時：平成13年1月20日（土）11時～。

場所：学習院創立百周年記念会館正堂。

【記念祝賀会】

日時：平成13年1月20日（土）13時～14時30分（予定）。

場所：学習院創立百周年記念会館小講堂・ホワイエ。

今年で最後！第40回日本寮歌祭

毎年恒例の「日本寮歌祭」が10月７日（土）、東京の日比谷公会堂で開かれました。今年で40回目を迎えた寮歌祭。学習院のステージは12時50分から行われ、学習院寮歌「大瀛の水」が高らかに歌われました。

40年の歴史を誇るこの祭典も、残念ながら今年が最後の開催となってしまいました。しかし、誇り高き寮歌は、今後もＯＢの皆さんによって、歌われてゆくことでしょう。

寮歌祭は終わっても、寮歌はいつまでも歌いつがれる

CAMPAS 学習院ニュース

文学、歴史、グルメなどバラエティに富んだ全71講座「学習院生涯学習センター」秋講座、聴講者募集中!

平成10年にスタートした学習院の生涯学習施設「学習院生涯学習センター」。4月に開講した「春講座」に続いて、「秋講座」を開講。現在、受講者を募集中です。

ＪＲ目白駅から徒歩5分とアクセス至便。受講した人は延べ3000人以上で、主婦を中心に、仕事帰りのOLやサラリーマンなど幅広い層に支持されています。

今回の「秋講座」の講義内容は、大きく9つのジャンルに分かれています。

まず、「日本を知る」では「徳川三代と大名家訓」や「日本古代史悲劇の皇子たち」「歴史に見る女性の生き方」など全13講座。視野を世界に移した「世界を知る」では、「マヤ文明の真実」や「英語で楽しむアメリカ西部紀行」など7講座あります。

さらに「みる・感じる・つくる」のテーマでは、「大名と大名道具」をはじめ、春に引き続き「水彩画入門」や「絵手紙」の講座が開講される予定です。

多彩な内容が魅力の「暮らしを彩る」では、「小笠原流礼法を学ぶ」をはじめ、「旅の写真術」や「音楽おもしろ講座」など全12講座が開講されます。

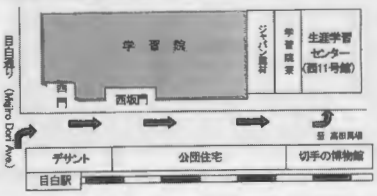
一方、国際化の影響で外国語に対するニーズも高まっているのに応え、英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語など、さまざまなジャンルの語学講座も実施。初歩から学ぶことができるので、人気を集めています。

上記のほかにも、実務に役立つ「インターネットビジネスの始め方」や資格試験対策プログラムとして「宅建主任者試験対策講座」など、充実したラインナップが魅力です。学ぶ楽しみをこの秋、じっくりと味わってみませんか。

〒171-0031東京都豊島区目白1-3-19。☎03・5992・1040（直通）、FAX03・5992・1124、ホームページhttp://www.gakushuin.ac.jp/～open-www

目白駅から徒歩5分の切手の博物館前にある閑静な生涯学習センター

学習院生涯学習センターＭＡＰ



フランス文学科篠沢教授「文学講義」全5巻完結

学習院大学フランス文学科の名物教授篠沢秀夫先生（昭32仏）が、教室で実際に講義をしたライブ版の講義録『篠沢フランス文学講義』（大修館書店刊）の4巻目と5巻目を刊行した。

1巻目『文学言語の成熟』（17、18世紀と19世紀前半）、2巻目『絶対を求めて』（19世紀の詩人たちから20世紀初頭の作家）、3巻目『ベル・エポックの輝き』（第1次大戦前から第2次大戦前の作家）、そして今回4巻目『伝統からの解放』（両次大戦間の作家とフランスの伝統の問題）と5巻目『大洪水の時代』（占領下から戦後を生きた現代作家）が刊行され、全5巻が完結。講義のテープをもとに作られたもので、学問的価値もさることながら、〝シノザワ流〟の脱線話などもあり、卒業生にとってはなつかしく読める。

今回の新刊2冊。四六判各本体3000円、（大修館書店刊）

松下武義さんの『経営と権力』出版記念会 赤坂プリンスホテルで盛大に開催!

住友銀行専務から、東京総合信用社長・会長を経て、平成11年10月同社と日本総合信用の合併によって設立された株式会社クオークの会長を務める松下武義氏（昭35政）が、日米での経営者体験をふまえた著書『経営と権力』（NHK出版刊）を上梓しました。

現在、多摩大学大学院客員教授も務める松下氏ですが、約1年をかけて準備された同大学院の講義録をもとに、さらに1年をかけて全面的に加筆訂正、今回の出版となりました。

内容は、「経営権力を握るにふさわしい経営者の資質」「経営権力とは何か」「決断するとき、結果責任を負うとき」「経営戦略と権力行使タイプ」「経営者と会社と社会との関係」「こんな人事権が強い組織をつくる」「国際化における経営者の役割」「役立つ経営学をめざして」（同書目次より）。

「なぜ、経営学は実際の経営に役立たないのか――。経営者の現場に身をおきながら、つねづね感じていたこの思いが、この本を書く動機です」（同書冒頭より）

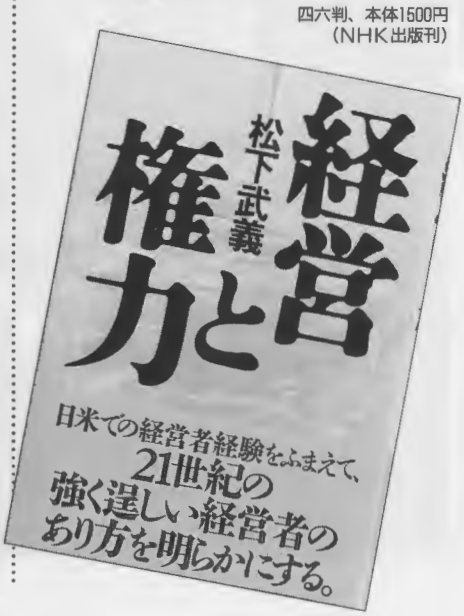
さまざまなマスコミに取り上げられて好評を博しているこの『経営と権力』の出版記念会が、平成12年9月21日、赤坂プリンスホテルで盛大に開かれました。

当日は、野田一夫多摩大学名誉学長・宮城大学学長、樋口廣太郎アサヒビール名誉会長、海老沢勝二日本放送協会会長、川内通康ニッポン放送会長ら多数のゲストが出席し、ご夫妻で登場した松下氏の出版を祝いました。

また、学習院ＯＢ・ＯＧも多数かけつけ、同窓生の活躍に拍手を送りました。

「おもしろく、小説のように読める」と評判の『経営と権力』、一読してみてはいかがですか。

写真上／出版記念会の主役、松下武義夫妻（左から2・3人目）と学習院卒業生の面々との記念撮影。「超多忙な松下さんが本を書いたとは驚き」の声も。写真左／松下武義さん



四六判、本体1500円
（NHK出版刊）

野田一夫多摩大学名誉学長・宮城大学学長

川内通康ニッポン放送会長

海老沢勝二日本放送協会会長

樋口廣太郎アサヒビール名誉会長

8月26日に山形市内で開かれた山形桜友会ビアパーティー

列島通信北から南から
山形桜友会
YAMAGATA OHYUKAI

庄内・最上・置賜・村山と県内4地域に110名の会員を有する「山形桜友会」。米本会長を中心に、去る7月に開かれた「学習院公開講演」を大成功に導いた。会員一人一人、特に一致団結した女性会員のパワーが、会の活動を盛り立てはじめている。

学習院公開講演の開催で山形桜友会の結束の強さを再確認！

講師の藤竹教授と鈴木その子さんを囲んでの記念写真

山形県は東北地方のちょうど中間に位置し、日本地図で見ると宮城県と隣り合わせになっていますが、南北に大変広い面積をもっています。日本海に面する酒田市、鶴岡市を有する庄内地方、昨年12月の新幹線延伸で一躍脚光を浴びた新庄市を有する最上地方、上杉鷹山で有名な米沢市を有する置賜地方、そして樹氷をシンボルとしたスキーのメッカ・蔵王や芭蕉の句で有名な山寺、「かみのやま」「天童」という国内有数の温泉地を抱える村山地方の4つの地域に大別されます。

山形桜友会では現在110名を数える会員がいますが、県内全域に広がっているために会員が一堂に会する機会というのはほとんどありません。年1回の総会やゴルフコンペ、山形名物の「芋煮会」にしても、どうしても県都山形での開催にならざるを得ず、出席するメンバーも全体の約2割程度に固定されがちでした。

そのような状況下、本年は7月に第53回「学習院公開講演」を開催することが急遽決定し、短期決戦でその準備を進めることになりました。当日は初めて半数近いメンバーが山形市内の会場に集結し、島津院長をはじめとする学習院、桜友会、常磐会、父母会の役員の方々と懇親を深めることができ、また会員一人一人の努力の集積として、公開講演史上2番目となる780名の聴講者を集めることができました。

中でも今回の準備に当たって特筆すべきは、一致団結した女性メンバーの活躍でした。テレビに出演してのPRやチラシ、ポスターを使った草の根の広報活動に力を発揮して、改めて学習院における女性パワーの強さを再認識させられた次第です。

今回の公開講演の準備・実施という一連の活動を通じて、山形桜友会の結束の強さを確認する機会を与えていただいたことに対して、会員一同心から感謝の気持ちを申し上げたいと思います。

文／山形桜友会事務局長
芳賀光弘（昭58済）

会長からのご挨拶

山形桜友会会長
米本 満（昭35経）

山形県はその名が示すように、北から鳥海山、蔵王山など1000m以上の山々に囲まれており、その中心に出羽三山と呼ばれる羽黒山、月山、湯殿山があります。古くから山岳宗教の聖地として栄え、江戸時代の丑年ご縁年には年間15万人の参拝者で賑わったといわれています。現在もその賑わいは変わっておりません。

また芭蕉で名高い最上川は、県を縦断して庄内平野から日本海に入り、母なる川として県民に親しまれております。このように自然の景観と風土に恵まれ、サクランボ、ブドウ、ラ・フランス（洋ナシ）などの果物の産地としても、国内有数の温泉地としても有名です。

東京と山形間は、私が大学入学当時（昭和30年）夜行列車で12時間位かかりましたが、今では新幹線も開通し、最短2時間27分で結ばれるようになりました。皆様のお出掛けをお待ちしております。

現在110名ほどいる山形桜友会の会員は、県内の各界・各層の中堅として活躍中で、将来を嘱望されております。このたび、山形で2度目の「学習院公開講演」が開催されました。講師の先生方、学習院関係者および山形桜友会の皆様の熱意により大盛況裡に終わりました。心より御礼を申し上げます。これを機に今後も交流の輪を広げ、楽しい集まりをもっていきたいと思っております。

若者にとっての「経験」をテーマに講演した藤竹教授

講師に鈴木その子さんと藤竹暁教授を迎え、大盛況

第53回「学習院公開講演」開催!!

合同懇親会で乾杯の発声をする山形桜友会の風間眞一氏

去る7月1日（土）の14時から山形市のパレスグランデールで、第53回「学習院公開講演」が開かれた。今回の公開講演で講師を務めたのは、学習院大学法学部の藤竹暁教授（昭30政）と学習院女子短大のOGで食品・化粧品研究開発家の鈴木その子さん（昭28短家）。まずはじめに「若者にとって経験とはなにか」を演題に藤竹教授が講演。つづいて鈴木その子さんが「いくつになっても希望をもって若々しく」という、まさに鈴木さんの独壇場ともいうべきテーマで、興味深い話を披露された。

今回の講演会は、史上2番目となる780名の聴講者が集まり、学習院からは、島津院長をはじめ、小倉大学長や早川女子大学長、賀陽桜友会長など多数の方々が出席した。公開講演の後には、同会場にて「学習院卒業生・在学生父母の集い」と「合同懇親会」も開催され、懇親が深められた。

島津久厚院長と鈴木その子さん

講演会には楽しい話を聴くべく多くの人が集まった

間宮聰夫

順天堂大学
スポーツ健康科学部
スポーツマネジメント学科教授
(昭33政)

SPECIAL INTERVIEW

応援団時代の間宮さんは、エピソードに事欠かない人だったようだ

**江田島の海軍兵学校で生まれ育った少年時代、人生は18年だと思い込んでいた。
将来は広告の仕事をしたいと希望し、社会学を勉強しようと入った学習院では、
学生のリーダー的存在として応援団と自治会の活動に熱中。
生き生きとした学生生活を送り、希望の業界へ羽ばたいた。
今、自分の半生で学んできたメディアとスポーツの関係を、
順天堂大学の学生たちに教えている。もちろん、変わらず生き生きと……。**

「今週の木曜から、学生を20人連れてシドニーに行くんです。現場でしっかりと、オリンピック運営の裏方役の勉強をしてくるつもりです」と、意気揚々とおっしゃる先生の笑顔は輝いてみえた。
※インタビューは9月11日

学習院には感謝しています。応援団や自治会では、自由なテーマでいろいろ勉強をさせてもらいました。

Toshio Mamiya

昭和10年に、広島県江田島の海軍兵学校内で生まれて、そこで育った。

「父親が化学の教授をしていたからなんです。あの頃、周囲にいた若者は『行ってきます』と特攻で出て行ったきり、ほとんど帰ってきませんでしたから、子供の私は18歳以上の人生はないのだと思っていました」

8歳のときに父が亡くなり、横浜へ引っ越す。それからは、18歳より先の人生を考えられるようになった。中学、高校生の頃には、新聞記者になりたいと思うようになった。

「ところが、父の後輩であった白石一誠先生（当時名古屋大学教授）にこう言われたんです。『これからは広告の時代になるぞ。新聞記者を目指すより、広告会社に入って幅広い仕事をしたほうがいい』ってね」

広告の仕事を目指すのに何を勉強すべきか考えた結果、統計学か社会学がいいだろうということに。そして、社会学の清水幾太郎先生が教授をされている学習院大学を目指した。

「中学の教科書に載っていた『民主主義のすすめ』という清水先生の文章に感銘を受けた、というのも理由の一つです」

昭和29年に学習院大学政経学部政治学科に入学。あこがれの清水先生の社会学研究会に入った。しかし、先生の現在の教えと、かつての教えは違うような気がしてならない。自分のイデオロギーと違うように思えた。

「清水先生に、お考えが変わったのはなぜかと尋ねてしまいました。先生は笑って『そのうち分かるよ』とおっしゃいましたが、助手の一人が猛烈に怒りました。無理もない。入学したての1年生が生意気ですよね。思えば、私は江田島で育ちましたから、かなり右寄りなんですよ」

その助手は、私に分厚い原書を3冊渡して、1週間以内にレポートを出すよう言った。

「当時は外国語の原書を読むなどままなりませんから、自ら清水先生の研究会を退会せざるを得なくなりました」

学生時代、夢中になっていたのは……。

「応援団と自治会の活動でしょうか。応援団は運動部系でも文化系でもない、自治会直属の存在だと思っていました。スポーツをする人に見る人や支える人が必要なのと同じように、文化部で活動する人にも支える人が必要です。今の応援団員も、音楽会や美術展を観に行っているはずですよ」

2年のとき、先輩方それぞれが出身校のやり方を引き継いでいたためバラバラだった応援の型を、学習院固有の型にまとめた。桜の花やGマークをシンボライズした応援の型は、現在も引き継がれているという。

「昨年まで応援団のOB・OG会の会長を12

昭和41年、院祭で演舞する応援団。このころの伝統も今に受け継がれている

「桜の花やGマークをシンボライズした応援の型はどんなものですか？」と聞くと、すぐに教えて下さった。普段から威厳のある間宮教授だが、その時はさらに迫力が増したように見えた。もし自分が学生で怒鳴られたらさぞや怖くて……、いや、その奥に見え隠れする優しさにきっと惹かれただろう

間宮聰夫（まみや・としお）
昭和10年11月11日、広島県江田島海軍兵学校内で生まれる。昭和26年横浜翠嵐高校入学。昭和29年4月学習院大学政経学部政治学科入学。昭和33年5月株式会社電通入社。ラジオ・テレビ局テレビ中央部で活動をはじめる。ビートルズ、ツィッギー、モハメド・アリ対ジョー・フレイジャーのヘビー級ボクシングの衛星放送など、マスメディアを駆使したビッグ・イベントのプロデュースを手掛ける。現場の責任者として、平成3年に東京で開催した世界陸上選手権大会を担当。日本ゴルフ・トーナメント主催者協議会理事、財団法人日本バスケットボール協会理事、社団法人国際文化協会理事を歴任。順天堂大学スポーツ健康科学部教授。現在イベント学会理事。

年間務めましたが、今の学生には、昔の型を押し付けるつもりはない、変えていいと言っていました。大切なのは本人たちの創造性だと思います。応援団に限らず、今の学生には自分自身のクリエイティビティを磨くよう言いたいです」

応援団の先輩から叱られた思い出がある。

「野球の応援に行ったときのこと。その日は皇太子殿下（今上陛下）が、同級生のピッチャーの応援にいらしていたんです。7回になると、全員が起立して院歌を歌うのですが、そのとき、殿下の隣に座っていた生徒に向かって『そこの学生、立ちなさい！』と私は言ったんです。それを殿下に言ったのだと勘違いをした先輩から、こっぴどく怒られました。私は、殿下の隣にいた御学友に言ったのに……。殿下は初めから、立っていらしたんですよ」

さて、広告の仕事をするなら電通に入りたい、と切望した間宮氏の作戦をここで披露。

「当時の電通は入社試験はなく、コネで入る時代でした。チャンスを得るにはコネが必要。コネがなければ作るしかないので、電通の吉田社長が頭があがらないであろう人物が誰か考えました。吉田社長の郷里の大先輩、石井光次郎副総理です」

もちろん副総理にも面識がないので、副総理に影響力のある方を考えた。

「副総理のブレーンの一人だった野田経済研究所の野田豊先生です。しかし、野田先生ともつながりはない。そこで、私は学習院の制服を着て、野田先生のお宅の庭の草むしりに毎日通ったんです」

1週間ほど経ったある日、先生の奥さんが声をかけてくれた。

「『きちんと着替えて、11時に首相官邸に行きなさい』と言われて出向くと、副総理が『私の友人である間宮くんを……』と、推薦状を書いてくれました。吉田社長から『友人とは何ごとか』と叱られながらも、電通に内定。うれしかったですね」

入社前に電通から仕事を手伝いにくるようにいわれたが、ちょうど院祭の実行委員長をしていて忙しかったために行かなかった。

「そのせいで、3月になっても正式な採用通知が来なかった。あわてて交渉して、何とか補欠入社で5月に入社できたんですよ」

電通時代は、幅広くメディア担当で活躍。そして平成5年に電通を自主退職して、順天堂大学で、スポーツを競技として捉えると同時に、商品として見る「スポーツマーケティング（スポーツ経営学）」の教鞭をとっている。筑波大学大学院でも非常勤で教えている。

「プロ野球でもJリーグでも相撲でも高校野球でも、運営や経営はとても大事です。購入前に試飲・試着などで商品を確認できる製品マーケティングとは異り、スポーツの商品は完成以前に入場券・テレビ放送権などの、代金支払いが終わっています。スポーツマーケティングでは、メディア・生活者の期待する商品価値を創り出すことが必要となります」

学習院でも、数年前に教職課程コースで「企業の求めるものは何か」という内容の講座を持ったことがある。

「現在の大学の学生に教えるのもやり甲斐がありますが、できれば母校・学習院でもスポーツマーケティングについての講座を持ちたいですね」

発想がユニーク！

元毎日新聞記者、現在フリー
水野順右（昭33仏）

電通がまだちゃんと電通通りにあった頃のお話。ある日、先輩と後輩の社員二人、玄関の石段降りつつ「おい、カニでも食うか」。「ハイッ」と喜んだ後輩が歩き出すと、先輩はタクシー停めて「羽田へ」。アレッと思ったが、聞き返すなんてとんでもない。風格十分の先輩は、体も大きいが日に焼けた顔もおっかない。

やがて羽田空港から乗った飛行機が、着いたところはなんと函館。カニ食うなら北海道で獲れたてを――豪気なことですが、この大胆なる先輩こそ間宮聰夫氏である、と、また聞きのまた聞きで聞いたことがあります。

ま、話の真疑はともかく、いかにも間宮君らしい逸話です。発想がユニークで実行力抜群。今年のシドニー五輪もそうでしたが、スポーツを〝事業〟として立ち上げ、大いに華のあるイベントにしたのも、電通マンとしての彼のアイディアであり、努力のたまものなのです。

ところで、私たち29年入学組は、「桜星会」という集まりを持っています。ナゼ〝星〟なのかは、同期に常陸宮殿下がいらっしゃるという一事から、ご推察頂くとして、この会の発足・継続もまた、彼なしには考えられません。

そして私個人も、いささかの恩義を感じております。在学中アメリカン・フットボール部にいたのですが、試合のたびに応援団が大校旗持って来てくれて、その団長が間宮君。ところが私らの弱いこといったらもう、連戦連敗それも大敗。勝つメドの立った相手の応援団は、さっさと帰えっちまうのに、間宮団長以下は最後まで大声出してて下さった。今でも頭の下がる思いであります。

と、これだけホメたんだから間宮さん、今度、カニぐらいご馳走してヨ。

インタビュー・構成／石原恵理子（昭62仏／フリーライター）　Photographer/Hideki Shiozawa

沼津游泳場

海の楽しさも、厳しさも、みんなここで学びました。

西寮の中。沼津での生活が走馬灯のように甦る

国道414号線沿いの入り口

撮影●塩沢秀樹
訪ねた人●近藤麻紀(平3短家)

沼津を訪ねることになり、何人かの同窓の方々にお話を伺った。
「大学のゼミ合宿で行った」、「サークルの懇親会で行った」、
「游泳会（水泳部のOB・OGを中心とした有志団体）として出かけた」
「臨海学校で行った」、「家族旅行で出かけた」。
そんな語り合ったり、お酒を飲んだり、くつろいだり、
と、さまざま利用されているのが沼津游泳場。
私にとっては、初等科6年の臨海学校で行ったのが最初だった。
波に身を任せながらも、波を越え泳ぐ楽しさ、
潮に流され、泳いでも泳いでもなかなか進めない厳しさ、
そんな海の面白さを教えてくれたのが、沼津游泳場だ。
多くの人の思い出を持つ沼津游泳場。その地を今、ふたたび、訪ねた。

映画のロケ地のようなノスタルジックな世界

今ではなかなか見かけなくなった蚊をよけるための蚊帳（かや）。蚊が入ってはいけないのに、この蚊帳が珍しく、初等科生の私は何度も出たり入ったりして、先生に注意された。また、蚊帳は広げて吊す時もたたんでしまう時もみんなで行う。協力するという、団体生活の基本も学んだ

西寮の中庭。向かいの部屋の人に庭越しに声を掛け合い、食堂へと向かうこともあった

長い廊下は、雑巾がけでは試練の場所。水泳で疲れていても、自分の生活空間は、自分で磨く。きれいになっていく廊下を見ていると、はじめは嫌でもだんだん楽しくなり、いつの間にか友達と競争して磨きあっていた

部屋の入り口、廊下沿いに掲げられた看板。黒光りした板と文字に、沼津の建物に刻まれた、歴史の重みが感じられる

各部屋にある押入れ。水泳の道具を各自しまったりした。ほうきははけの部分を傷めないよう、必ずかけるのが決まり

国道414号線沿い、地元の家々に混じり突然その看板が目に入った。「学習院游泳場」の門だ。うっかりすると見逃してしまいそうなほど、町に溶け込んで……。

門を入るとそこは、昔と同じだった。当然、畳の入れ替えなどは行われているが、天井に廊下、雨戸に地面の砂。約20年前、私が初等科の臨海学校で来た時と何も変わっていないように見えた。懐かしさのあまり管理の方への挨拶もそこそこに、敷地内の散歩に出た。

沼津游泳場内の建物はおおまかに東寮、中寮、西寮、食堂を備えた桜朶館（さくらだ）、そして院長室に分かれる。この中で最も広いのが、25室ある西寮。臨海学校で訪れた多くの生徒がこの西寮に泊まったであろう。蚊帳をつったり、廊下を雑巾がけしたり、今の近代的な家ではなかなか体験できないことを学んだ場所だ。今も当然クーラーはなく、柱にはほうきがかけてある。変わったことと言えば食堂とお風呂を備えた桜朶館が出来たことぐらいだろうか。海への道を歩くと、竹でできた物干し竿もそのまま。準備体操をした広場もそのまま。海への門もそのまま。飛込みをした脚立も形が変わらず、櫓をこぐ和船も現役だ。現在でも沼津游泳場には初等科・女子部・男子部の臨海学校が行われている。当然ながら〝赤ふん〟こと、赤いふんどしも健在だ。春や夏にはゼミやサークルの合宿も行われている。そして一年を通して、卒業生や在校生の父母など、学校関係者の宿泊も受付を行っている。

同行のカメラマン曰く「まるで戦前映画の世界みたい」と。スクリーンの中でしか見られないような情景が、ここでは現役でがんばっている。いや、がんばっているのではなく、ごく自然にあるのだ。その不変の美とも言うべき沼津游泳場には、「帰ってきたよ」という言葉以外、見当たらなかった。

和船。桜のマークが施されている。今年から1台新しい和船が仲間入りした

院長室。この施設が出来た時には院長先生専用の部屋だった。現在は臨海学校の時に、各科の科長先生が宿泊される

雨が降って泳ぐことが出来ない日など、黒板を前にミーティングをしたり、先生の目を盗んでは落書きなどをして遊んだ

この浜のすぐ後ろが、学習院の沼津遊泳場だ。ここから遠泳をするため海へと入っていった。打ち寄せる波、そして夕日を反射する海。生徒で訪れた時は、こんな夕暮れの海を見たことはなかった。大人になり、沼津に来て初めて知る楽しみだろう

沼津の新しい顔

平成8年に作られた食堂とお風呂のある桜染館（さくらぞめかん）。管理の方はここにいらっしゃるので、普段訪れた時の受付はここの一階だ。

2階の食堂にだけはクーラーが設置されている。夏の暑さに負けないためにきちんと食事ができるように、との配慮からだ。食堂は臨海学校に来た生徒が一度に食事が出来るほどの広さがある。

写真下は女性用のお風呂。以前に比べ広くなり、シャワーの数も増えた。また隣にはシャワールームも設置されている、充実した施設だ。一度に30人位は入れるゆとりあるスペースとなっている。男性用とは同じつくりで、色違いだ。

校外各施設使用料金一覧表

	沼津游泳場
A　本院の学生、生徒、教職員（本院の生徒（中等科）、児童、園児）	1泊1,000円（500円）
B　本院の教職員家族	2,000円
C　本院の在学生父母、卒業生および賛助員	3,000円
D　本院が認めた者	4,000円
E　3歳以上12歳以下の者および3歳未満で寝具等を必要とする者	上記B、D料金の半額
※　日帰り料金（12歳以下の者は無料）	A　500円（中等科 250円）
	B　1,000円
	C　1,500円
	D　2,000円
※　食事代　朝食	900円
昼食	900円
夕食	1,200円

☆上記の料金は、消費税を含む金額です。
☆宿泊の場合は、午後3時から退出する日の午前10時まで。日帰りの場合は、午前10時から午後3時まで。
☆食事代は各施設にて退所時に徴収します。
☆本院在学生の妻子については、D料金を適要する。
☆大学学生指導のためホームルームまたはゼミナール等を単位として指導教員の指導のもとに使用する場合は1泊2日間に限り使用料を徴収しません。
☆輔仁会等の合宿練習で使用することを許可された場合には使用料は半額とします。（ただし学生部に合宿許可願を届け出た公認団体に限る。）

あんなこと、こんなこともありました。沼津の懐かしグラフティー

沼津游泳場の歴史は、隅田川下流、江ノ島と続いた游泳場の後を継ぐものとして、明治45年に沼津御用邸に隣接する御料地に完成した時に始まる。

この大正・昭和と心身鍛錬の場として続いてきた沼津游泳場は、昭和19年5月から7月までの約2ヶ月間、初等科生疎開のための寄宿舎として利用された。そして戦後、再び沼津游泳場は、戦災で通学が不可能になった初等科生と、中等科1年生のために昭和20年から学寮が開かれ、同21年2月末までの5カ月間を学寮として使用された。沼津寄宿舎は元々夏の游泳演習用に建てられた建物で、冬を過ごすには向いていなかったため、数人の生徒が凍傷にかかるなどの苦労もあった。

その後の沼津游泳演習は、昭和21年の中等科の再開に始まり、各科、順次再開されていき、海の汚れた一時期を除き現在まで続いている。

昭和7年の沼津游泳演習場での学科の授業。当時は游泳演習だけではなく、学科1時間・操艇3時間・游泳3時間が沼津での生活の日課だった。

昭和57年7月27～31日に行われた初等科の臨海学校。遠泳の全員成功を目指して練習を行う。男子はもちろん赤ふんどし。臨海学校期間中には参観日もあり、東京からわざわざ父兄の方々が沼津までいらっしゃる。

游泳演習の合間のひととき。右から二人目が游泳指導の小堀平七講師。指導は小堀流（古式泳法。傘を広げ持ったまま泳ぐなどの泳法）の家元が当たることになっており、小堀講師は昭和8年度まで指導された。

平成2年の高等科1年生の沼津臨海学校。夏真っ盛りで、周りは家族連れの海水浴客がいっぱい。その中で、赤いふんどし姿は照れくさかった。だから早く海に飛び込んだが、お尻はぷかぷかと浮いてしまった。

初等科・中等科合同の朝、泳ぐ前の準備体操。一番上の写真、すぐ上の写真と共に、昭和7年8月1日から3日間、沼津での生活を記録するため、宮内省内匠寮技手によって撮影されたもの。貴重な資料だ。

平成6年5月、史蹟研究会の合宿。布団を引き、寝る準備をしてから、懇親会へ突入！　だが大半の学生は布団ではなく、押し入れ、廊下、海などで朝を迎えてしまう。初夏恒例の、新入生歓迎合宿でのひとコマ。

昭和44～45年、フランス会部員3名の記念写真。当時のフランス会部ではフランス語劇公演の稽古と称して、たびたびここ沼津で合宿をした。ビートルズ、ヒッピー文化の影響か、3人とも髪は長めである。

沼津のシンボル

沼津御用邸記念公園

沼津游泳場と小道を挟み隣接するのが、総面積75600㎡の旧沼津御用邸・沼津御用邸記念公園だ。敷地内には東附属邸と西附属邸が建つ。

西附属邸は、明治38年（1905）、大正天皇（当時皇太子）の皇子、昭和天皇や秩父宮、高松宮の御用邸として建てられた。昭和44年まで御用邸の使命を果たし、その後公園として開放された。明治の木造宮廷建築として、全国にも数少ない貴重な建築物だ。建物内部では公式の謁見などに使われた部屋と、居住に使われた私的な部屋を見られる。海側にある西庭と、中庭には手入れの行き届いた日本庭園がある。

東附属邸は、明治36年（1903）に、赤坂離宮の東宮大夫官舎を移築。一時は皇族が滞在されたこともあったが、東宮御学問所として昭和44年まで利用された。そして公園として市民に開放されてからは市民が日本文化を学ぶ場として使われ、平成10年に再整備も完成、現在も市民の研修所として利用されている。

東附属邸、第一学問所にあるシャンデリア。細かいところまで模様が。平成10年、隣に茶室も新築した

昭和天皇がご幼少のころ学ばれた第一学問所。学習院沼津游泳場へもこの地から通われたという

西附属邸の中では最も公式な部屋、謁見所。右手にあるのが玉座用肘掛椅子。室内には書院も設置されている

西庭と西附属邸。沼津御用邸記念公園は9時～16時30分、無休。西附属邸と東附属邸セットで400円。☎0559・31・0005

西附属邸の御玉突所。玉突（ビリヤード）は明治時代の上流階級の社交的レジャーだった。玉突台は復元

沼津垣と呼ばれる、沼津独特の垣根。潮風を防ぐため、直径1cmほどの箱根竹を交互に編んだもの

皇室ゆかりの品々も販売

記念菓　花の心●皇太子ご夫妻もお買いになられたという落雁。梅・わさび・桜・抹茶の4つの風味で1セット。8セット2850円

しおり●沼津御用邸記念公園の正門（ドイツのゾーリンゲン製ともいわれる）をデザインしたしおり。500円

ハンカチ●左は雅子様のおしるし「はまなす」が、右は紀子様のおしるし「檜扇菖蒲」が刺繍されているハンカチ。1枚800円

第２代大学長 **麻生磯次**
昭和38年４月～昭和44年３月

初代大学長 **安倍能成**
昭和24年４月～昭和38年３月

学習院大学設立50周年企画

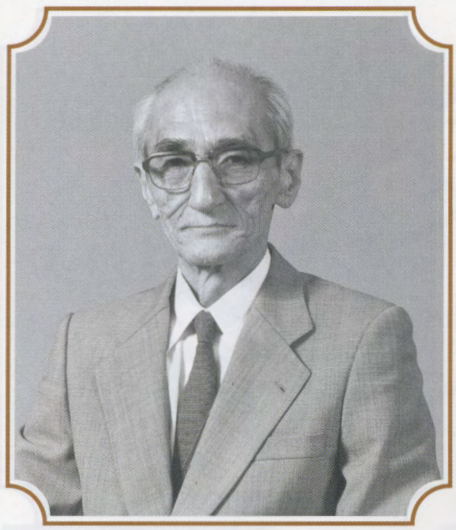
学長の横顔

昨年、設立50周年を迎えた学習院大学。
記念式典や『学習院大学50年史』の刊行など、様々なイベントが行われた。
多くの人々の努力と、協力により50年間発展し続けてきた。
そして、影になり日向になり常にその中心となってきたのが
故安倍能成学長をはじめとした９人の大学長たちであった。

第3代大学長 近藤正夫
昭和44年4月～昭和48年3月

第4代大学長 児玉幸多
昭和48年4月～昭和54年3月

第5代大学長 磯部忠正
昭和54年4月～昭和56年8月



昭和24年5月11日に入学式を兼ねて行われた大学開講式。演壇に立つのが安倍能成学長

昭和36年5月9日の大学院自然科学研究科博士課程設置の祝賀会。修士課程は昭和28年4月に設置されている

昨年、設立50周年を迎えた学習院大学。この50年間、先頭に立って大学を牽引してきたのが安倍能成氏から現在の小倉芳彦氏に渡る9人の学長たちだった。その学長たちの足跡を、安倍能成氏を中心に振り返ってみたい。

学長の50年は昭和24年4月1日の学習院大学発足と同時に始まる。この時の初代大学長には、安倍能成院長が、文政学部長を兼任して就任した。

そして、学習院大学発足時に教授陣として集まってきたのが、旧東京帝国大学などで安倍学長と親交を持っていた一流の学者たちや、安倍学長を慕う、当時、新進気鋭の学者たちだった。

その多くの人々に慕われた安倍学長の名前を出す時、学生たちは「安倍学長」とは呼ぶことはなかった。「安倍先生」これが安倍学長の学校での名前だった。この呼び方こそが、常に学生の近くで目を配り、親しみを持たれ、かつ哲学者・教育者として学生から畏敬の念をもたれてきたことの証だろう。

安倍学長は昭和38年までの14年間に渡り学長を務め、同年4月に麻生磯次学長にそのバトンを渡した。

第3代学長は近藤正夫氏だった。この近藤学長の時に、大学紛争が全盛期を迎え、全国の大学でデモやバリケード封鎖などが相次いだ。他の学校よりも比較的落ち着いていた学習院大学でもその大きな流れには逆らえず次第に運動が活発化していった。それに対して大学側として先頭に立って対処していったのが近藤学長だった。時には多くの学生の中で対話に臨むなど困難な大学運営を最後まで務めきった。

そして時代は平成に変わり、昨年、平成11年5月15日、大学開学50周年記念式典が挙行された。

大学も学生も小倉学長を中心に21世紀に向けて再び走り始めた。

第6代大学長 木下是雄
昭和56年11月～昭和60年11月

第7代大学長 安田元久
昭和60年11月～平成元年11月

第8代大学長 早川東三
平成元年11月～平成7年11月

大学紛争の中で図書館前広場で学生たちと対話にのぞむ第3代近藤学長

大学開学50周年記念式典で記念植樹をする小倉学長

学習院大学長に聞く

これまでの50年、これからの50年

第9代大学長 小倉芳彦
平成7年11月～

21世紀を迎える最初の学長として、この50年、そしてこれからの50年を小倉芳彦学長に伺った。

はじめに大学、学生は、この50年でどのように変わりましたか。

「『学習院』には幕末に遡る歴史がありますが、大学としては明治・大正以来の歴史を持つ他のマンモス私立大学に比べ、まだまだ成長過程です。しかし、そのような他大学とは鮮明な違いがあります。日本をリードしていく心身ともに健康なエリートを育てるということです。これは安倍能成先生の『精神的貴族であれ』という言葉に集約されています。

また学生の50年は、大きく分けて3つに分かれると思います。大学発足からの十数年、大学紛争を挟んだ10年間、そして今に続く時代です。最初の十数年は学生の中でも一芸一能に秀でたおもしろい人が多くいました。戦後の厳しい時代だったこともあって、自分独自の道を切り拓こうと一人一人が一生懸命努力していました。中には音楽家や作家など、学習院での勉強とは全く畑違いの分野で現在、活躍している人たちも集まっていました。その次の世代は高度経済成長と共にレジャーランド化したといわれた大学への反動から、社会全体に対する、それまでの矛盾に対する爆発として大学紛争の起きた世代です。学習院大学にもその余波がありました。そしてその大学紛争に疲れた世代がその後の、いわゆる無気力、無関心の世代につながっていったのではないでしょうか。」

これから21世紀にむけての大学の展望を教えてください。

「現在、大学として中長期事業策定計画を練っているところです。近いうちに公表するつもりですが、その計画は他の大学にまねて対抗するだけのものではありません。これまでも、流行の学部や学科を作ったりすることはしてきませんでした。見方によっては怠慢なように見えるかもしれませんが、今でも表には見えないところでIT化のインフラ整備などが進んでいます。数年前とは信じられないくらい変化しています。正直に言えばもう5年後も見通すことの難しいくらい、早いスピードでいろいろなことが進んでいます。IT化と同時に、教育の高度化も進めています。具体的にいうならば、大学院での高度専門職業人の養成です。例えば大学院で心理学専攻の中に臨床心理士の試験資格を得ることができるコースをつくりたいと思っています。他にも電子図書館や学内にある貴重な資料の電子化の推進、学習院として公式ホームページの立ち上げなどを検討しています。また一つのアイデアとしてですが、集中ゼミ形式で学内合宿などができるようにしたいと思っています」

最後にこれから入学してくる学生たちに期待することをお願いします。

「こちらから期待するよりも、逆に日々変わる学習院大学に期待してください」

大谷焼

徳島県鳴門市

うず潮で知られる徳島県鳴門市は、
四国霊場八十八カ所めぐりの一番札所、霊山寺もある場所だ。
そんな全国に名を馳せる名所にひっそりと息づくのが、大谷焼。
知名度こそあまりないが、実はスイレン鉢や瓶など、
実用的な大物を作ることでは日本を代表する、焼物だ。

写真／渡辺潔

小さなものまで1点、1点丹精こめて作る

「実の用、その重さ」OTANI-YAKI

現在、大谷焼で一番人気あるのが左の写真のスイレン鉢。無造作に庭先に置かれるものだが、よく見ると粋なデザインが施されている

日本庭園の片隅、石を敷き詰めたところに、そっと水を流す。すると「テーン、トーン」、となんともいえない琴のような音が響いてくる。そんな風流な細工がされていることがある。水琴窟だ。この音の仕組みは、底に小さな穴の空いた壺を土に埋め、その上に石を敷き、石をつたって水のしずくが壺の底に当たって鳴るものだ。その壺など、美術品としてはなかなか日の目を見ないが、堅実な焼物を作っているのが、大谷焼。

もとは藍染めを作る過程で布を寝かせるためや、薬品を運ぶための大ぶりの容器として発展した焼物。そのため現在、日本ではここでしか見ることの出来ないという、大物を作る技法「寝ロクロ」が今も受け継がれている。1人が横になりロクロを蹴り、もう1人が器の形を作り、2人で1組となり、大人の身丈以上の物を作るという珍しい技法だ。

最近では大物以外にも、茶碗や花瓶なども作られているが、基本にあるのは実用性。そのためデザインは極めてシンプル。日本のどんな風景にも溶け込みそうなものばかりなので、用途もさまざまとなる。壺が傘立てに、瓶がフラワーアレンジメントを生けるときの容器に、そしてもちろん壺本来の役目としても……。持ち主の考え方により、使い方が多様に変わるのだ。そして当然、実用性を重視しているため、値段も手ごろで丈夫なものが多く、親しみやすい。

素朴な大谷焼。その姿はまるで、一家団欒の茶の間のような暖かさを持つ焼物といえよう。

土は地元讃岐山脈のものを使用。窯元は現在８件あり、窯元によっては陶芸体験もできるところがある。大谷焼の里は県道12号沿いに点在

「実の用、その重さ」

OTANI-YAKI

大谷焼の原点ともいうべき瓶や壺。今でも老舗の味噌屋など全国から注文が来て、保存瓶として本来の目的で使用されてもいるそうだ。

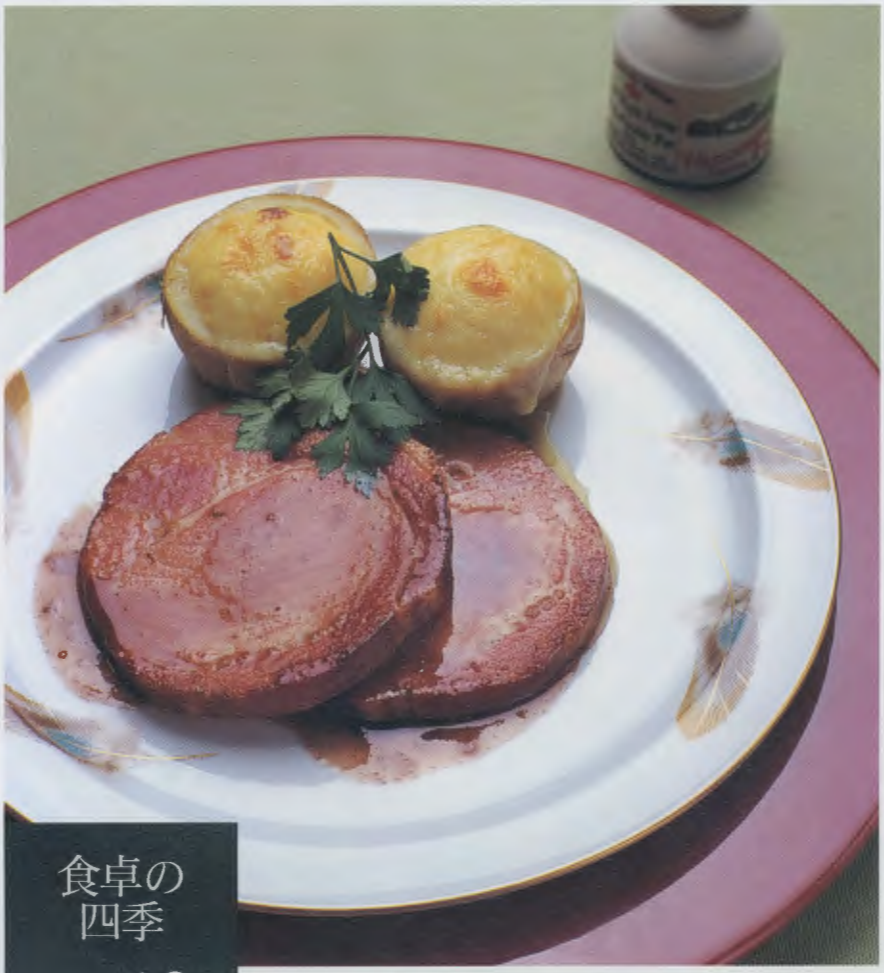
大谷焼

徳島県鳴門市

日用に耐える強さと自在性は
本来の用途を超えた
自由な使い方を
イメージさせてくれる。

土に埋められ、普段はなかなか見ることの出来ない水琴窟の甕。瓶に水が反射していい音で響くように、研究がなされている

■桜友会情報出版委員会
担当副会長
亀井　泓（昭24高）
委員長
畑中　茸雄（昭38化）
オブリージ編集部会長
池田　浩規（昭33政）
編集チーフ
吉江　隆信（昭50仏）
スタッフ
近藤　麻紀（平3短家）
前川　弦信（平8営）
冨岡　哲也（平9法）
五十嵐匡一（平10史）
小林　雄太（平10史）
田村麻衣子（平10独）
高野麻結子（平11仏）
中村　貴志（平12物）



さとうかえでの木に穴を開け樹液を集め、これを煮詰めて、シロップ状に濃縮したもの。蜂蜜のような独特の風味は蒸発過程の複雑な化学連鎖反応でおこる。ホットケーキやパンケーキのシロップとして使われる

食卓の四季 VOL.12

メープルシロップ

MAPLE SYRUP

江上種英（昭60経）

えがみ・たねひで／昭和38年東京生まれ。江上料理学院主幹。食品食材のコーディネートに従事。「日刊スポーツ」「小説すばる」「久保田通信」などにエッセイを執筆。

赤いメープルがシンボルのカナダといえば、ロッキー山脈と湖が思い浮かぶ。

しかし、静かで広大なこの国は、イギリスとフランスの植民地支配の対立の歴史が、いまも強い影をおとしている。実際にCanadian航空のanは、仏語のenにもみえるよう、工夫されたロゴマークになっているほどだ。

だが、本当の歴史は、白人の探検家が足を踏み入れる前からの原住民のインディアンたちによってつくられていた。彼らは、糖分の採取方法として、メープルの樹液を取り、それをメープルの木で造った小屋で煮詰めて、シロップにしていた。

インディアンたちに製造方法教わったフランス人は、この貴重な栄養源により厳しい冬を乗り越え、やがてその子孫の手により、メープルシロップはより芳醇なものへと変わって行く。

さて、バンクーバーは世界で最も美しい都市の一つで、入江と川と海峡が入り組んだ町には、森と高層ビルとがごく自然に調和している。リスが遊ぶスタンレーパークの向こうには、湾に浮かぶボートが整然と並んでいる。この町は北のハリウッドと呼ばれ、映画やテレビの制作が頻繁に行われている。ダウンタウンの南にある「エルボウルーム」では、朝からメディア関係者が巨大なプレートと格闘している。

さて、ここで活躍するのがメープルシロップ。巨大なパンケーキにかけたり、ハムステーキのソースにしたりする。ハムを大胆に切って口にほうり込めば、自然の恵みで元気になる。メープルシロップはカナダの朝食のスーパーヒーローだ。

HOW TO COOKING

■ハムのメープルシロップソース

①フライパンにサラダオイルとバターをいれ、温める。
②①にロースハムを入れ、中火でこんがりと両面とも炒めて、とりだす。
③このフライパンにメープルシロップ、赤ワイン、ブイヨンを加え、弱火で少し煮詰め、塩コショウで味をととのえる。
④器にハムをもり、③のソースをかける。

Photographer／Kawakita Shigeki　協力／江上料理学院

[オブリージ] Autumn No.31
Oblige
2000年10月25日発行
発行人／賀陽治憲
発行所／桜友会
〒171-8588
東京都豊島区
目白1-5-1学習院内
☎03・3988・3288
編集人／池田浩規
印刷所／共同印刷

「好品質」。買いやすい、使いやすいから

SAVINGS セービング®

セービングは、毎日ずっと、おつきあいいただける品質、気軽にお使いいただける価格をコンセプトにお客様のニーズにあわせた商品をお届けしていきます。

この秋、新発売のおすすめの逸品。

バランスの良い味と香りのブレンドコーヒー。
セービング
スペシャルブレンドコーヒー（スプレードライ）
250g **598円** 詰替用・230g **498円**

甘さひかえめ。豆の味を生かした本格的コーヒー。
セービング **スペシャルブレンドコーヒー（缶）**
渋みを抑え、コーヒーのコク・香りを生かしました。
セービング **ブラックコーヒー・無糖（缶）**
各190g（缶） 各**58円**

コーヒー豆を程よくブレンド。拡がる香りと味わい。
セービング
スペシャルブレンドコーヒー（フリーズドライ）
詰替用・90g **328円**

味・香り豊かな逸品。一番茶を使用。
セービング
お茶（緑茶）
2ℓ **198円**

※写真は盛り付けの一例です。

本場イタリア産パスタを使用。
温めるだけでお弁当の一品に。
セービング
お弁当スパゲティ（ナポリタン）
3個入・240g **158円**

※写真は盛り付けの一例です。

北海道産 男爵芋100%。
サクサクとした食感。
セービング
サックリ衣の牛肉コロッケ
6個入・210g **178円**

ソースのからみが良い、コシのあるマカロニです。
セービング
サラダマカロニ
200g **98円**

※写真は盛り付けの一例です。

ストロベリー・メロン・ホワイトチョコとミルクチョコがドッキング。
セービング
チョコミックス
250g **258円**

商品のお求め、お問い合わせはお近くのダイエーで。（一部取扱っていない店舗もございます。ご了承ください。）
掲載の表示価格は、消費税抜きの価格です。ご精算時に消費税をあわせてお支払いください。

お問い合わせは、株式会社ダイエー TEL.03-5968-6840まで（午前10時～午後5時、土日除く）

インターネットでダイエーの情報をご案内しております。ホームページアドレス http://www.daiei.co.jp/

Daiei

［オブリージ］
NO.31
2000(平成12)年10月25日発行　年4回25日発行
発行／学習院校友会「情報出版委員会」〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1 学習院同窓会校友会事務局内 ☎03(3988)3288

その新動脈、鹿島メイド。

21世紀はじめ開通予定の第二東名・名神高速道路。
高度な交通情報システムを取り入れた そのスーパーハイウェイ・プロジェクトを、
鹿島建設は最先端の技術で実現します。
より快適に、安全に、短時間に。人々と物資のスムーズな流れは、
日本経済の新たな原動力を生み出します。

100年をつくる会社
鹿島
KAJIMA CORPORATION
本社:東京都港区元赤坂1-2-7 〒107-8388
ホームページ http://www.kajima.co.jp/